

# 高知県埋蔵文化財センター年報

第31号

2021年度

公益財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



# 高知県埋蔵文化財センター年報

第31号

2021年度

公益財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



## 序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、大規模な開発に対応する円滑な発掘調査事業の推進とともに、高知県から指定管理者として委託を受けて、高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を行っています。

令和3年度の発掘調査受託事業は発掘調査が7件、整理業務が5件で、前年度から継続する県の道路事業を中心とした発掘調査に加え、新たに国土交通省が計画している高速道路建設に伴う安芸道路発掘調査事業が始まりました。また、農林水産省による大規模な国営ほ場整備が南国市に計画されており、ほ場整備に伴う発掘調査の一部を南国市から委託を受け発掘調査を実施しました。

指定管理事業では公開展示、公開講座、出前考古学教室など広報普及事業を中心に実施しています。公開展示では、近年の発掘調査成果を紹介する「速報展」を始め、四国四県の連携事業で運営している巡回展「発掘へんろ展」、秋の「企画展」、県内市町村を会場に出張展示を行う「地域展」など4回の展示を開催しました。これらの展示会では分かりやすい展示に努めるとともに、ギャラリートーク、展示報告会や企画展のテーマに沿ったフィールドワークも実施しています。

コロナ禍により参加人数の定員の制限や、イベントの中止や延期といったこともありますが、多数の方々に来館、参加していただき感謝申し上げます。

今後、発掘調査事業の縮小も予測されますが、これまでの発掘調査成果を含め更なる調査・研究を進め、地域の歴史をより多くの方々に伝える普及教育事業をさらに推進し、文化の振興に資する施設として努力してまいります。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年12月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所 長 松田 直則

## 例言

- 1.本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの令和3(2021)年度事業の概要をまとめたものである。
- 2.「Ⅲの2」及び「Ⅳ」は担当が中心となって執筆し、吉成が取りまとめ編集した。

## 本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団..... 1	III 年間事業の概要..... 7
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要..... 1	1. 発掘調査受託事業..... 7
(1) 設立趣旨..... 1	(1) 発掘調査事業..... 9
(2) 目的等..... 1	(2) 整理事業..... 10
(3) 設立年月日..... 1	2. 指定管理事業..... 11
(4) 名称変更年月日..... 1	(1) 高知県立埋蔵文化財センター管理事業..... 11
(5) 事務局所在地..... 1	(2) 普及教育事業..... 12
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織..... 2	(3) 研修事業..... 31
(1) 財団組織..... 2	(4) 講師等職員のパ遣..... 32
(2) 財団役員..... 2	IV 各遺跡の発掘調査概要..... 33
II 埋蔵文化財センター..... 3	1. 若宮ノ東遺跡(21-1NW)..... 33
1. 埋蔵文化財センターの概要..... 3	2. 森山城跡(21-2HM)..... 35
(1) 設立趣旨..... 3	3. 新堀川護岸(21-3KS)..... 37
(2) 事業内容..... 3	4. 忠兵衛遺跡(21-4NC)..... 39
(3) 設立年月日..... 3	5. 金政遺跡(21-5AK)..... 41
(4) 埋蔵文化財センター所在地..... 3	6. 成願遺跡(21-6NS)..... 43
2. 埋蔵文化財センターの組織..... 3	7. 高知城跡(21-7KCN)..... 45
(1) 埋蔵文化財センターの組織図..... 3	V 条例・規則等..... 47
3. 埋蔵文化財センターの施設..... 5	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例..... 47
4. 利用方法等について..... 6	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例施行規則..... 51
(1) センターの利用..... 6	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指 定..... 52
(2) 利用時間..... 6	
(3) 休館日..... 6	
(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先..... 6	

## 表目次

表 1 高知県文化財団評議員..... 2	表11 令和3年度親子考古学教室実績一覧..... 20
表 2 高知県文化財団理事・監事..... 2	表12 平成10～令和3年度出前考古学教室実績一覧 ..... 24
表 3 令和3年度埋蔵文化財センター職員一覧 ..... 4	表13 令和3年度出前考古学教室実績一覧 (前期授業実施数)..... 25
表 4 発掘調査推移表..... 7	表14 令和3年度出前考古学教室実績一覧 (後期授業実施数)..... 26
表 5 令和3年度受託事業(発掘調査)一覧..... 8	表15 令和3年度出前考古学教室実績一覧..... 26
表 6 令和3年度受託事業(整理遺跡)一覧..... 10	表16 令和3年度職員専門研修..... 31
表 7 入館者推移表と令和3年度の入館者..... 12	表17 令和3年度埋蔵文化財担当者研修実績一覧... 32
表 8 令和3年度公開講座参加者数..... 17	表18 令和3年度講師派遣・調査指導等実績一覧..... 32
表 9 令和3年度遺跡解説会..... 17	
表10 令和3年度まいぶん講座..... 18	

## 図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	.....	20
図 2 埋蔵文化財センターの組織図.....	3	図 8 若宮ノ東遺跡位置図.....	33
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800).....	5	図 9 森山城跡位置図.....	35
図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800).....	6	図10 新堀川護岸位置図.....	37
図 5 発掘調査受託事業推移グラフ.....	7	図11 忠兵衛遺跡位置図.....	39
図 6 令和3年度受託事業(発掘調査)位置図.....	9	図12 金政遺跡位置図.....	41
図 7 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合		図13 金政遺跡I区遺構配置図.....	41
		図14 成願遺跡位置図.....	43
		図15 高知城跡西ノ丸位置図.....	45

## 写真目次

写真 1 年間行事カレンダー.....	12	写真28 山城講座と城歩き(佐川城跡).....	22
写真 2 発掘速報展ポスター.....	13	写真29 出前考古学教室(授業風景).....	26
写真 3 発掘速報展展示会場.....	13	写真30 出前考古学教室(展示解説).....	26
写真 4 発掘速報展展示風景.....	13	写真31 出前考古学教室(勾玉づくり風景).....	27
写真 5 巡回展ポスター.....	14	写真32 出前考古学教室(火起こし風景).....	27
写真 6 巡回展ギャラリートーク.....	14	写真33 ホームページ.....	28
写真 7 巡回展展示風景.....	14	写真34 団体見学(展示見学).....	29
写真 8 企画展ポスター.....	15	写真35 団体見学(整理解業見学).....	29
写真 9 企画展展示風景.....	15	写真36 ロビー展示(立体土器パズル).....	30
写真10 企画展講演会(高知城歴史博物館).....	15	写真37 特設コーナー(弥生集落復元パズル).....	30
写真11 地域展ポスター.....	16	写真38 職員専門研修(講義風景).....	31
写真12 地域展展示風景(大方あかつき館).....	16	写真39 職員専門研修(遺物の実見とレクチャー).....	31
写真13 地域展 VR 遺跡地図利用状況.....	16	写真40 遺構完掘状態(北より).....	33
写真14 第1回遺跡解説会(若宮ノ東遺跡).....	18	写真41 遺物出土状態(南西より).....	34
写真15 第2回遺跡解説会(新堀川護岸).....	18	写真42 区画溝(飛鳥時代)作業風景.....	34
写真16 第1回まいぶん講座(石器の基礎知識).....	18	写真43 自然流路から繋がる堀跡(北上空より).....	35
写真17 先生のための考古学入門講座(整理解業風景) .....	18	写真44 二ノ堀遺跡遺構完掘状態(東上空より).....	36
写真18 古代ものづくり教室(ガラス勾玉づくり).....	19	写真45 新堀川西岸(南より).....	37
写真19 古代ものづくり教室(銅鏡づくり).....	19	写真46 梯胴木検出状態(東より).....	38
写真20 親子考古学教室(勾玉づくり講義).....	19	写真47 新堀川西岸石垣(南東より).....	38
写真21 親子考古学教室(火起こし体験).....	19	写真48 遺構完掘状態(上空より).....	39
写真22 親子考古学教室(宿毛市会場).....	21	写真49 中世墓遺構完掘状態(南より).....	40
写真23 親子考古学教室(四万十町会場).....	21	写真50 中世の溝跡と現代の畝(北より).....	42
写真24 考古学研究最前線(第2回講座風景).....	21	写真51 鍛冶炉跡検出状態(南西より).....	42
写真25 考古学から学ぶ史跡の見方(田村城館跡).....	22	写真52 竪穴建物跡完掘状態(上空より).....	43
写真26 考古学から学ぶ史跡の見方(屋嶋城跡).....	22	写真53 土坑遺物出土状態(北より).....	43
写真27 山城講座と城歩き(浦戸城跡).....	22	写真54 北側完掘状態.....	44
		写真55 石列検出状態(南より).....	45



# I 公益財団法人高知県文化財団

## 1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

### (1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める という方向が現われてきている。

このような時代趨勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足し、その数年後には美術館が開館する等、県民文化の振興のための施設整備がなされてきた。これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制作りが必要であるという認識のもと、ここに高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって本県の新しい時代の総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

### (2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### (3) 設立年月日

平成2年3月28日

### (4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団から公益財団法人高知県文化財団へ移行

### (5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 役員

評議員7名 理事長1名 理事12名 監事2名

② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

③ 組織図

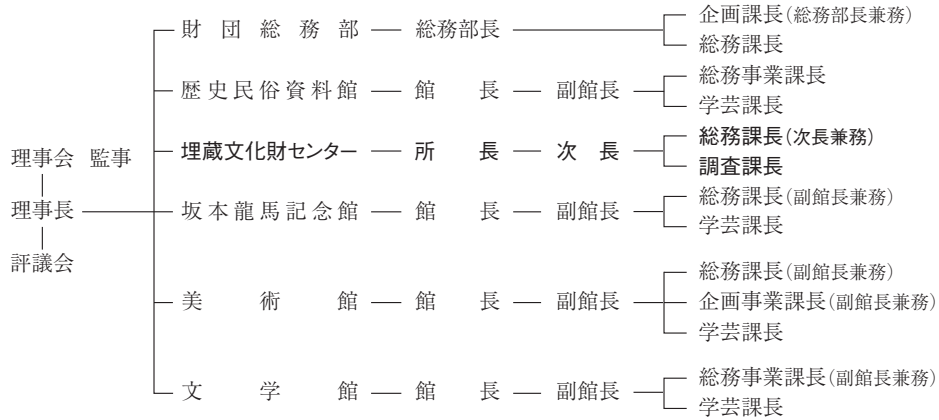


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	天野 弘幹	㈱高知新聞社学芸部長	令和2年6月12日就任
〃	合田 和穂	高知県教育委員会事務局教育次長	令和3年4月1日就任
〃	笹岡 貴文	高知県町村会事務局長	令和2年6月12日重任
〃	笹岡 浩	高知県文化生活スポーツ部副部長	令和3年4月1日就任
〃	三宮 昌子	㈱高知銀行常務取締役	令和2年6月12日重任
〃	橋谷 正人	㈱四国銀行取締役本店営業部長	令和3年7月30日就任
〃	吉野 晴喜	高知県市長会事務局長	令和2年6月12日就任

令和4年3月24日現在

表2 高知県文化財団理事・監事

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	鎌倉 昭浩		令和3年6月29日就任
理事	岡崎 誠也	高知県市長会長	令和2年6月12日重任
〃	岡村 昭一	高知県文化生活スポーツ部長	令和2年6月12日重任
〃	戸梶 眞幸	高知県町村会長	令和3年4月1日就任
〃	中平 雅彦	㈱高知新聞社代表取締役社長	令和2年6月12日就任
〃	野嶋 佐由美	高知県立大学学長	令和2年6月12日重任
〃	原 哲	高知県立文学館長	令和3年7月1日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	令和2年6月12日重任
〃	古谷 純代	高知商工会議所副会頭	令和2年6月12日重任
〃	森下 勝彦	㈱高知銀行代表取締役会長	令和2年6月12日重任
〃	山元 文明	㈱四国銀行取締役頭取	令和2年6月12日重任
〃	山本 眞壽	染織家	令和2年6月12日重任
〃	吉村 大	高知県立坂本龍馬記念館長	令和3年4月1日就任
監事	吉田 佳史	㈱四国銀行地域振興部長	令和3年7月30日就任
〃	廣光 良昭	税理士	令和2年6月12日重任

令和4年3月24日現在

## Ⅱ 埋蔵文化財センター

### 1. 埋蔵文化財センターの概要

#### (1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

#### (2) 事業内容

##### ① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を実施し、報告書を刊行する。

##### ② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

##### ③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

##### ④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

##### ⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

#### (3) 設立年月日

平成3年4月1日

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

### 2. 埋蔵文化財センターの組織

#### (1) 埋蔵文化財センターの組織図

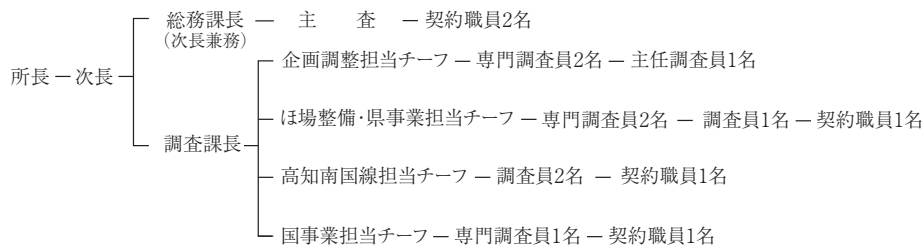


図2 埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 令和3年度埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		松 田 直 則	(公財)高知県文化財団	
次長(兼総務課長)		橋 田 歩	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	主 査	門 田 香 織	(公財)高知県文化財団	
	契約職員	今 田 琴 美	〃	
	契約職員	奥 宮 千 恵 子	〃	
調査課	調査課長		吉 成 承 三	〃
	企画調整担当	チーフ	坂 本 裕 一	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	西 村 豊 史	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	岡 内 一 進	〃
		主任調査員	山 崎 孝 盛	県教育委員会文化財課主幹
	国事業担当	チーフ	池 澤 俊 幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	筒 井 三 菜	(公財)高知県文化財団
	ほ場整備・ 県事業担当	チーフ	坂 本 憲 昭	〃
		専門調査員	徳 平 涼 子	〃
		専門調査員	田 代 雅 美	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		調査員	下 木 千 佳	県教育委員会文化財課主事
	高知南国線 担当	チーフ	久 家 隆 芳	(公財)高知県文化財団
		調査員	綾 部 侑 真	県教育委員会文化財課主査
		調査員	宮 地 啓 介	(公財)高知県文化財団
	事務担当	契約職員	北 村 幸 絵	(公財)高知県文化財団
		〃	廣 内 美 登 利	〃
		〃	岩 川 翔 子	〃

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地 : 高知県南国市篠原1437-1

敷地面積 : 4,203 m<sup>2</sup>

建物構造 : 本館・南館 重量鉄骨構造2階建 北館 軽量鉄骨構造2階建

収蔵庫 : 重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積 : 2,073.93 m<sup>2</sup>

(本館:615.58m<sup>2</sup> 北館:259.20m<sup>2</sup> 南館:574.11m<sup>2</sup> 収蔵庫:619.40m<sup>2</sup> プロパン庫:5.64m<sup>2</sup>)

延床面積 : 4,136.16 m<sup>2</sup>

(本館:1,038.68m<sup>2</sup> 北館:518.40m<sup>2</sup> 南館:1,045.92m<sup>2</sup> 収蔵庫:1,527.52m<sup>2</sup> プロパン庫:5.64m<sup>2</sup>)

事業費 : 650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

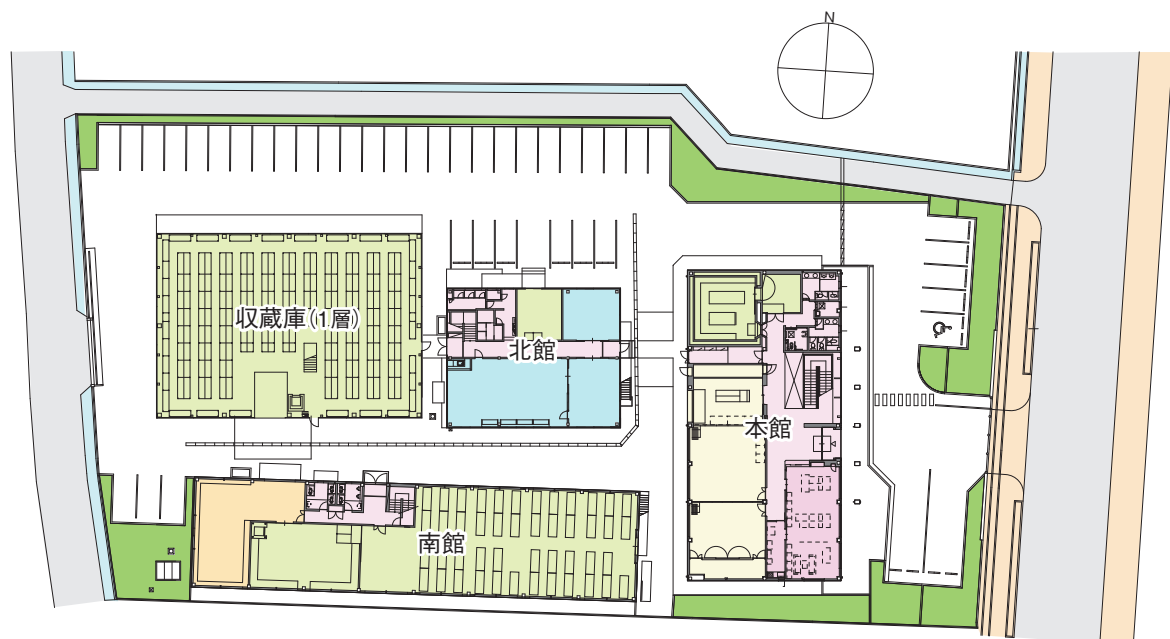


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

### 3. 施設・4. 利用方法について

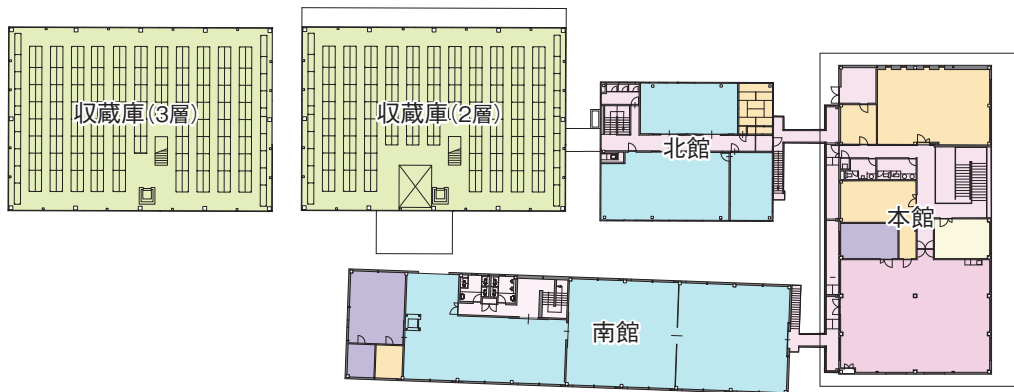


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

### 4. 利用方法等について

#### (1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

#### (2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

#### (3) 休館日

土曜日、公開展示期間以外の日曜・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所 〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel 代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax 代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL <https://www.kochi-maibun.jp/>

### Ⅲ 年間事業の概要

#### 1. 発掘調査受託事業

令和3年度に受託した件数は7件で、国土交通省(県教育委員会からの再委託)及び高知県からの委託を受け、安芸道路、都市計画道路高知南国線、都市計画道路はりまや町一宮線、県道甲殿弘岡上線の各建設事業に伴う本発掘調査と整理作業、及び史跡整備に伴う高知公園西ノ丸西側石垣改修工事、高知城跡石垣カルテ作成

を行った。受託契約事業費は309,672,000円で、事業費の内訳は、国関係が98,263,000円(32%)、県関係が211,409,000円(68%)であった。

国事業は高知県東部に延伸する高速道路安芸道路建設に伴う金政遺跡(安芸市土居地区)の発掘調査、また、今年度から農水省の南国市国営ほ場整備の事業化に伴い、南国市から委託を受け成願遺跡(南国市能間)の発掘調査を実施した。

県事業では都市計画道路高知

表4 発掘調査推移表

年 度	件数	受託面積
平成3年度	16件	25,910㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	90,546㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,902㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	6,052㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,119㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
平成21年度	11件	34,500㎡
平成22年度	5件	29,831㎡
平成23年度	6件	42,508㎡
平成24年度	3件	34,498㎡
平成25年度	4件	4,554㎡
平成26年度	0件	0㎡
平成27年度	3件	6,950㎡
平成28年度	3件	8,647㎡
平成29年度	4件	10,010㎡
平成30年度	4件	9,956㎡
(平成31年度) 令和元年度	5件	3,516㎡
令和2年度	6件	5,900㎡
令和3年度	7件	11,542㎡
合 計	357件	946,176㎡

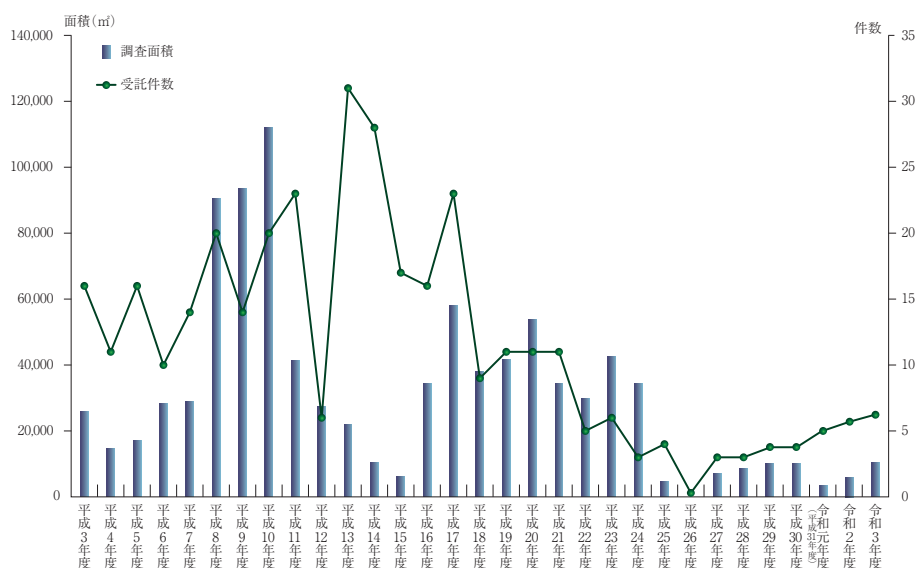


図5 発掘調査受託事業推移グラフ

## 1. 発掘調査受託事業

南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡・忠兵衛遺跡(南国市篠原)，都市計画道路はりまや町一宮線建設に伴う新堀川護岸(高知市はりまや町)，県道甲殿弘岡上線建設に伴う森山城跡(高知市春野町)の発掘調査と整理作業を実施した。また，前年度に史跡高知城跡の西山麓にある高知公園西ノ丸の西側石垣が降雨の影響により一部が崩落したことから，改修工事に伴う発掘調査が行われた。また，令和元年度より県文化財課からの委託を受け，高知城の石垣カルテを作成する事業も受託し，本丸西側石垣についてカルテ作成業務を実施した。

埋蔵文化財センターの体制(図2,表3)は，22名であった。内訳は考古専門職員が10名(県派遣3名，財団職員5名，嘱託職員2名)，県派遣事務職員が1名，派遣教員が5名，財団事務職員(嘱託職員)1名，財団契約職員(事務補助)が5名である。組織構成は所長，次長の下に総務課と調査課を置き，総務課は総務課長(次長兼務)1名，主査1名，契約職員2名を配置する。調査課はチーフ制を導入し，調査課長のもと，企画調整担当，国事業担当，ほ場整備・県事業担当，高知南国線担当の4事業に分け，それぞれにチーフ(4名)と調査員(9名)を配置した。

令和3年度の調査課の業務分担は，企画調整担当が物品・遺物(県保有物)等の貸出やホームページの管理などの情報公開，企画展等事業，公開講座等事業，出前考古学教室など指定管理に関わる広報普及教育業務，国事業担当が安芸道路建設に伴う金政遺跡発掘調査整理業務と高知城跡石垣カルテ作成業務・高知公園西ノ丸西側石垣改修工事に伴う発掘調査業務，ほ場整備・県事業担当が都市計画道路はりまや町一宮線，県道甲殿弘岡上線建設に伴う発掘調査整理業務と国営ほ場整備に伴う発掘調査，高知南国線担当が都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡・忠兵衛遺跡の発掘調査をそれぞれ担当した。

表5 令和3年度受託事業(発掘調査)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業者	原因	委託者
1	若宮ノ東遺跡	21-1NW	南国市篠原	弥生 ～ 近世	集落跡	356㎡	R3.5.10 ～ R3.6.30	高知県	道路	高知県
2	森山城跡	21-2HM	高知市春野町	中世	城館	1,530㎡	R3.5.6 ～ R3.12.2	〃	〃	〃
3	新堀川護岸	21-3KS	高知市はりまや町	近世 ～ 近代	石垣 護岸	30㎡	R3.6.7 ～ R3.6.30	〃	〃	〃
4	忠兵衛遺跡	21-4NC	南国市小籠	中世 ～ 近世	集落跡	5,613㎡	R3.4.27 ～ R3.11.30	〃	〃	〃
5	金政遺跡	21-5AK	安芸市東浜	古代 ・ 中世	集落跡	3,870㎡	R3.5.25 ～ R4.1.31	国土交通省	〃	高知県教育委員会
6	成願遺跡	21-6NS	南国市能間	弥生 ・ 古代	集落跡	1,330㎡	R3.9.6 ～ R4.2.4	農林水産省	ほ場 整備	南国市
7	高知城跡 西ノ丸	21-7KCN	高知市丸ノ内	近世	城館	176㎡	R3.11.9 ～ R4.3.31	高知県教育委員会	史跡 整備	高知県教育委員会
合 計						12,905㎡				



(1) 発掘調査事業

令和3年度の発掘調査事業件数は7件であった。各事業について具体的にみると、高知県教育委員会から受託した国関係の事業は国土交通省の安芸道路建設に伴う金政遺跡の発掘調査業務を実施した。古代から中世前期にかけての区画溝，掘立柱建物を構成する柱穴，鍛冶関連遺構などが検出された。

県関係では，平成28年度から始まった都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡の発掘調査が継続して行われ，令和3年度は同遺跡の西側に接する忠兵衛遺跡の発掘調査も併せて行われた。古代の区画溝が検出され，忠兵衛遺跡では近世を中心とする遺構が検出された。都市計画道路はりまや町一宮線については，高知城跡の外堀に該当する新堀川を道路化する計画があり，平成30年度から護岸石垣および工事の影響を受ける部分について調査が実施されている。旧新堀の痕跡を確認するため，対岸の護岸石垣の確認調査を実施した。石垣の胴木は梯子胴木で築石の違いなど構造の変化点が確認された。県道甲殿弘岡上線建設に伴う森山城跡の調査では山城の西側山下の平地部の発掘が行われ，掘状の地形の落ち込みが確認された。

高知県教育委員会からの委託事業では高知公園西ノ丸西側石垣の改修工事に伴う調査が実施され，高知城跡の西側搦手門に隣接する西ノ丸の遺構の一部が確認された。また，前年度に引き続き委託を受け，高知城跡石垣のカルテを作成した。

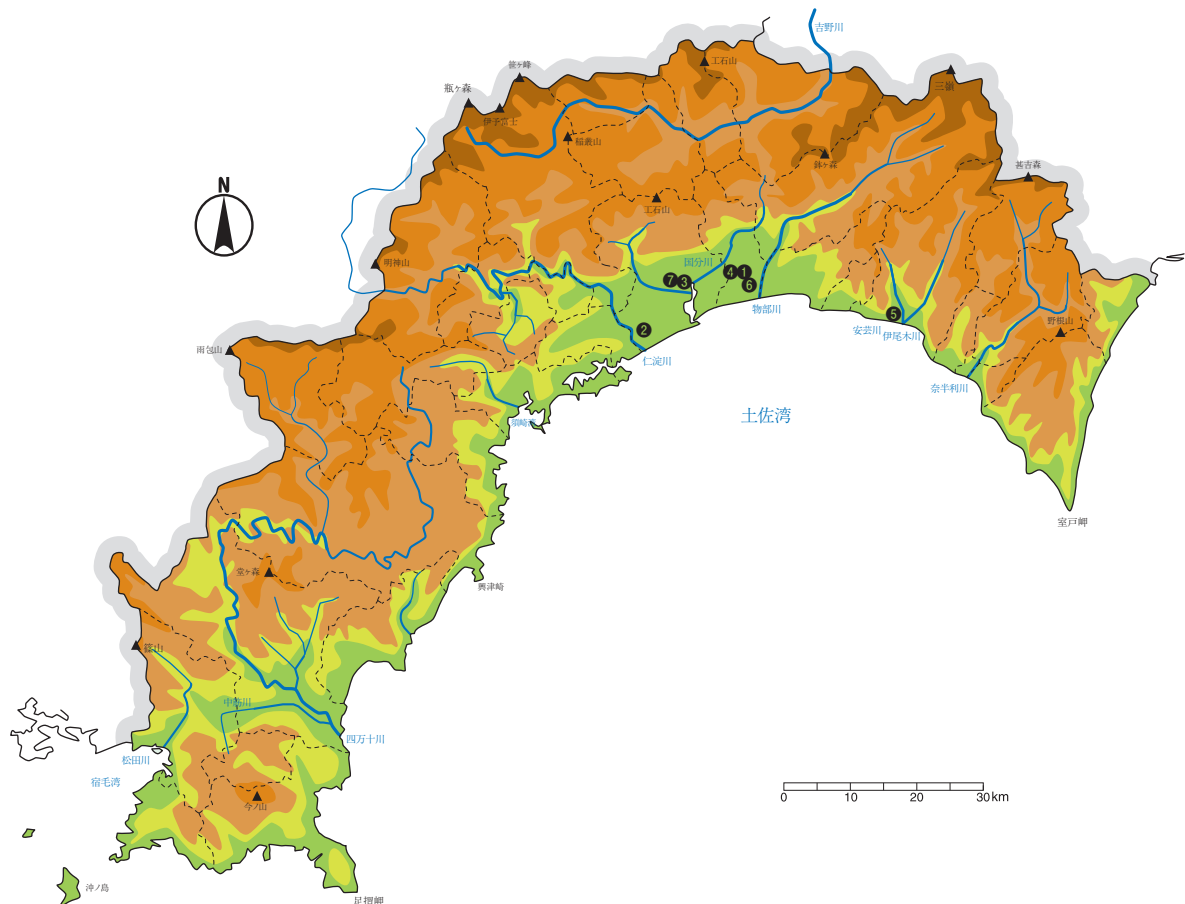


図6 令和3年度受託事業(発掘調査)位置図(番号は受託事業(発掘調査)一覧表の番号と一致)

## 2. 整理受託事業

### (2) 整理事業

令和3年度の整理事業件数は5件であった。委託元は高知県教育委員会から国土交通省南国安芸道路建設事業に関連する高田遺跡・東野遠山遺跡の報告書公刊，高知城跡ノ段北側石垣の整理業務と石垣カルテの整理業務を実施した。また，都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡と，県道甲殿弘岡上線建設に伴う森山城跡，都市計画道路はりまや町一宮線建設に伴う新堀川護岸の整理事業をそれぞれ実施した。

高田遺跡・東野遠山遺跡は香南市野市町下井地区・東野地区に所在し，平成29・30年度調査分について報告書公刊に向けた整理作業を行った。若宮ノ東遺跡は，整理作業では平成28～30年度調査分の遺物について実測・トレース作業・遺物観察を中心に実施した。また，発掘調査の基礎整理業務である洗浄・注記・接合も合わせて実施した。森山城跡は高知市春野町森山に所在し，発掘調査と並行して基礎整理業務を実施した。新堀川護岸は高知市はりまや町に所在し，令和元年度調査分の遺物実測作業と，令和3年度に実施した石垣解体に伴う発掘調査で出土した遺物の基礎整理業務を実施した。

表6 令和3年度受託事業(整理遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	高田遺跡 東野遠山遺跡	17-3KT・18-2KT 17-2KHT	香南市下井地区 香南市東野地区	弥生 ～ 近世	集落跡	R3.4.1 ～ R4.3.31	国土 交通省	道路	高知県教育 委員会
2	若宮ノ東遺跡	16-3NW 17-1NW 18-1NW	南国市篠原	弥生 ～ 近世	〃	R3.4.1 ～ R4.3.31	高知県	〃	高知県
3	森山城跡 二ノ堀遺跡	20-2HM	高知市春野町	中世	城館	R3.4.1 ～ R4.3.31	〃	〃	〃
4	新堀川護岸	20-3KS	高知市菜園場町	近世 ～ 近代	石垣 護岸	R3.4.1 ～ R4.3.31	〃	〃	〃
5	高知城跡梅ノ段	20-5KCU	高知市丸ノ内	近世	城館	R3.6.5 ～ R4.3.31	高知県教 育委員会	史跡 整備	高知県教育 委員会

## 2. 指定管理事業

高知県教育委員会が県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務に関して導入した現在の指定管理者の指定期間は平成30年4月1日から令和5年3月31日までの5年間であり、令和3年度はその4年目に該当する。主な業務内容は、管理事業と普及教育事業である。管理事業は、埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行うとともに、発掘調査による出土遺物を出土文化財として適切に保管・管理を行っている。普及教育事業では、発掘調査成果や出土文化財を活用し、企画展示や各種講座を開催することによって埋蔵文化財保護の推進に務めている。その他に職員の資質向上を図る研修事業と講師等職員派遣事業を行っている。

### (1) 高知県立埋蔵文化財センター管理事業

#### ① 施設管理

高知県立埋蔵文化財センターの施設・設備について適切な利用が図れるよう管理を行い、必要なものについては、事前承認を得たうえで再委託により実施した。施設機器の故障等については、協定書に基づき施設管理者として必要な修理等を随時行い、業務に支障の無いように維持管理した。また、外構施設の日常的な除草等植栽管理、環境整備については、職員で年6回美化活動を実施した。

#### ② 出土文化財等資料管理

##### i 出土文化財、図書等の資料管理

「高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領」に基づき、適切な管理に努めた。また、新規に受け入れた資料については要領に基づき情報管理データベースに登録し、更新することにより活用の便を図った。

遺物、写真、図書等の資料の貸出しについては、出土文化財20件、物品2件、写真・画像掲載許可等12件の借用依頼等に対し文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として、迅速に対応した。

##### ii 遺物及び写真資料の再整理

文化庁補助事業「県内埋蔵文化財 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用し、収蔵遺物の再整理として、報告書掲載遺物と収蔵遺物との照合作業とともに必要なものについては接合・補填等の修復作業を行っている。今年度は「上ノ村遺跡」「田村遺跡群」などの報告書掲載遺物と収蔵遺物との照合作業を行い、必要なものについては接合・補填等の修復作業を行った。「居徳遺跡群」の未掲載遺物の再整理については、これまでに未整理遺物の中から抽出した遺物のうち24点の実測を行った。また、展示や物品（県有物）貸出のために収蔵庫から取出した際に確認された破損や注記の摩滅等が確認された場合にも修復等の作業を行い再収蔵した。

また、写真資料の保存と活用のために、ポジフィルムをスキャナで読み込みデジタルデータ化する作業を行った。本年度は、『田村遺跡群』（高知県教育委員会1981）の41点について実施し、デジタルアーカイブとしてHDDに収納し保管している。また、これまでのデジタルデータは展示パネル等に活用している。

## 2. 指定管理事業

### (2) 普及教育事業

埋蔵文化財センターの入館者は、展示会観覧者と公開講座の参加者が中心であるが、施設見学や体験学習を行う団体見学や研究を目的とした出土文化財等の資料調査での来館もある。

今年度の入館者総数は3,441人で、対前年度比は約13%減(昨年度3,915人)であった。開館日数は298日(昨年度277日)で、新型コロナウイルス感染防止対策に伴う臨時休館が1日あった。開館日1日当たりの来館者数をみると、11.5人と昨年度の14.2人からさらに減少している。入館者数減の主な要因としては、新型コロナウイルス感染防止対策の影響が挙げられ、「まいぶんセンターまつり」の中止、公開講座やものづくり体験教室等の中止や定員を制限したことなどが主な原因として考えられる。平日の入館者についても減少の傾向が見られた。児童生徒の団体見学だけでなく、一般の入館者も外出を控えたためか軒並み減少し、展示開催期間以外の入館者数も116人(43日)と、昨年度(100人/27日)より日数が13日多いため1日平均にするとわずかに減少している。また、県外からの来館者も新型コロナウイルス発生前の令和元年度は228人であったが、昨年度は62人と激減し、今年度は83人とわずかに増加した。

当施設は入館無料で比較的短時間でも観覧ができることや、高知龍馬空港や高知自動車道の南国ICに近いなどの立地も観光者などが立ち寄りやすい条件にあり、新型コロナウイルス収束後に来館者が増加することを期待している。

学校や各種団体等からの団体見学や考古学に関連する実習や研修なども、年度によって申込の増減がみられるものの、積極的に受け入れている。近年受け入れを始めた中学生の職場体験学習では学校機関との連携をさらに強め、積極的に取り組んでいくことが当センターの業務の理解推進や文化財保護の普及啓発活動にも大きく関わってくるものと考えられる。今後も出前サービスは継続し

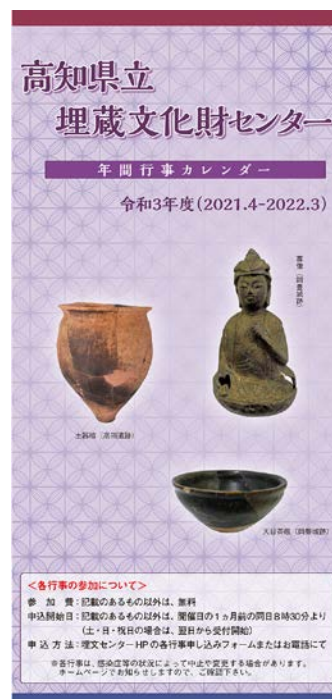


写真1 年間行事カレンダー

表7 入館者推移表と令和3年度の入館者

年度	合計(人)	入館者内訳(人)		展示会内訳(人)					展示報告・解説 参加人数(人)
		子供	大人	巡回展	速報展 (企画展1)	企画展2	特別展	地域展	
平成25年度	3,205	1,342	1,863	1,431	625	415	621	113	208
平成26年度	3,120	1,428	1,692	1,320	686	560	396	158	117
平成27年度	4,040	1,591	2,449	1,640	725	870	422	175	87
平成28年度	4,651	1,583	3,068	2,121	790	-	1,394	249	138
平成29年度	3,884	2,715	1,169	1,513	730	-	1,484	379	81
5年間合計	18,900	8,659	10,241	8,025	3,556	1,845	4,317	1,074	631
平成30年度	3,630	949	2,681	1,294	728	-	1,550	472	110
令和元年度	4,968	1,413	3,555	1,538	1,190	1,834	-	415	376
令和2年度	3,915	875	3,040	1,140	1,063	-	1,587	212	117
令和3年度	3,441	818	2,623	960	765	1,660	-	194	251
合計(人)	34,854	12,714	22,140	12,957	7,302	5,339	7,454	2,367	1,485

つつ、公開展示やロビー学習コーナーの工夫、発掘現場や施設の見学、体験メニューの充実を図り、学校関係だけでなく一般の団体・サークル等にも魅力的な施設となる取り組みを継続して取り組んでいきたい。

入館者数の恒常的な安定と増加には、当館の特色である考古学の専門性を活かしながらも気軽に参加でき、遺跡や地域の歴史に対する知的好奇心を刺激する展示や講座のテーマと内容を工夫し、体験メニューの拡充をできる限り続けるとともに、来館者の満足度を向上させるための施設環境の整備も引き続き行っていかねばならない。

また、館外へも出向いて展示や講座を提供するなど、地域学習や歴史学習に欠くことのできない施設であることをより一層アピールしていきたい。

以下、各事業について報告する。

### ① 企画展等展示会

本館1階展示室を会場として、発掘調査の成果等の公開活用のため春期(4~7月)、夏期(7~9月)、秋~冬期(10~3月)の年3回開催している。また、平成26年度から遺跡が所在する地域を会場とした館外での展示会を年1回開催している。

今年度は、春期に近年の発掘調査成果を紹介する「発掘速報展」、夏期の「巡回展」は、四国4県5団体の埋蔵文化財センターが共同開催し4県の会場で巡回展示する「発掘へんろ展」、秋~冬期はテーマ展示である「企画展」を開催した。令和2年度に「移動展」から「地域展」に名称を変更した館外展示会は黒潮町を会場に開催した。観覧者の総数は3,579人で、対前年度比は約11%の減(昨年度4,002人)であった。

各展示会では展示解説パンフレットの配布を行うとともに、展示の内容への理解を深め、より興味を持ってもらうための関連行事としてギャラリートーク、展示報告

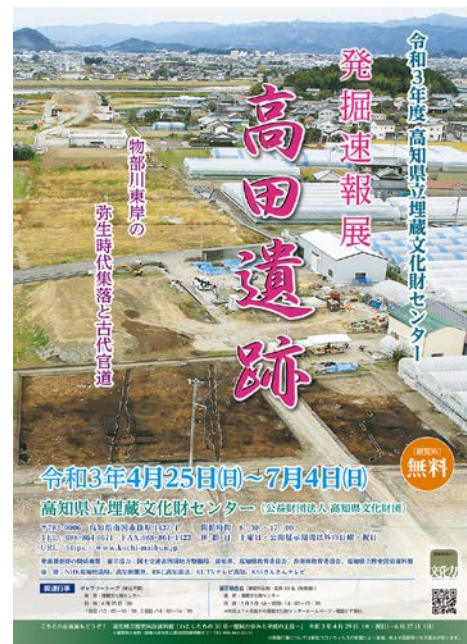


写真2 発掘速報展ポスター



写真3 発掘速報展展示会場



写真4 発掘速報展展示風景

## 2. 指定管理事業

会、講演会などを実施した。

また、入館者へのきめ細かい対応として、要望に応じて展示解説を行う旨の案内板を設けて随時行った。

以下、展示会ごとに報告する。

### i 発掘速報展

平成27～30年に実施した南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査「高田遺跡」をテーマとして4月25日(日)～7月4日(日)まで開催した。発掘調査で確認された弥生時代の竪穴建物跡や奈良・平安時代の掘立柱建物跡、道路遺構、中世の火葬墓などを紹介し、弥生時代の人々の多様な暮らしぶりや古代の役所跡や南海道に推定される道路遺構の重要性、中世の火葬墓から類推される古代の人々の習俗や死生観に迫る展示を行った。

関連行事として、ギャラリートーク1回と展示報告会1回を行い、観覧者数は765人(昨年度1,063人)で対前年度比は約28%減であった。

### ii 巡回展(四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展)

「四国の風土と暮らし」をメインテーマとして3年目となる今年度は「一山から四国を眺めてみた」と題し、高知会場は7月18日(日)～9月12日(日)まで開催した。展示では、四国各地の山に関係する遺跡や発掘された出土品から、山の恵みとなる石材や木炭に関する遺跡、山岳信仰や修験道に関する山の寺院跡や行場、四国各地の遺跡から出土する須恵器の器やお茶を煎る焙烙などから、山を介した人々の交流や商品の流通に迫った。

関連行事としてギャラリートークを1回行った。展示報告会は、梅野光興氏(高知県立歴史民俗資料館 学芸員)を講師に迎えて開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。観覧者数は960人(昨年度1,140人)で対前年度比は約16%の減であった。

### iii 企画展

「元親から一豊へー城郭遺構に見える戦国～近世の世界～」と題して、10月10日(日)～令和4年3月31日(木)まで開催した。展示では、長宗我



写真5 巡回展ポスター



写真6 巡回展ギャラリートーク



写真7 巡回展展示風景

部元親や山内一豊の系譜や長宗我部・山内氏の関係した小田原の北条攻めや関ヶ原の戦い、土の城から石の城へと変化する戦国期の山城と織豊系城郭の特徴、畝状堅堀の構造、岡豊城から大高坂城・浦戸城へと居城を変える長宗我部氏の実像に迫るとともに、山内一豊の土佐への入部と配下の北川豊後による高知城の石垣普請や領内の港湾整備、戦国武将に見られる茶の湯の世界について紹介した。

関連行事としてギャラリートークを2回、展示報告会を1回と講演会を1回実施した。講演会は、中井均氏（滋賀県立大学名誉教授）を講師に迎え「山城の魅力ーその見方、歩き方ー」と題して、高知城歴史博物館ホールで行った。観覧者数は1,660人（昨年度1,587人）と昨年度より微増で、対前年度比は約4%の増であった。

#### iv 地域展

黒潮町教育委員会との共催で大方あかつき館町民ギャラリーを会場に「黒潮町の遺跡展」と題して令和4年1月9日(日)～1月26日(水)まで開催し、これまで黒潮町で行われた発掘調査の出土遺物や写真などを展示し、町内の遺跡や歴史を紹介した。また、文化庁補助事業を活用して、地域の上空から遺跡の所在場所を俯瞰することができるVR遺跡地図を製作して会場に設置し、観覧者からも好評を得た。

関連行事としてギャラリートーク1回、ワークショップ(勾玉づくり)1回と山本哲也氏(元高知県立埋蔵文化財センター職員)を講師に招き、「遺跡から見える黒潮町の歴史」と題した講演会を行った。

観覧者数は194人(昨年度212人)であった。会場施設は、上林暁文学館、図書館、町民等が利用する会議室やホールなどが併設されており、観覧者名簿への記入者以外にも施設を訪れた多くの地元住民に観ていただくことができたと思われる。また、黒潮町教育委員会生涯学習課と地元の入野小学校から依頼があり、職員6名と6年生22名にそれぞれ展示解説を行った。開催地の黒潮町教育委員会でも会場施設館内へのポスターの掲示、市広報誌へのチラシ掲載など積極的に関わっていただくことができた。



写真8 企画展ポスター



写真9 企画展展示風景



写真10 企画展講演会(高知城歴史博物館)

## 2. 指定管理事業

アンケートには、「地元こんなに遺跡や貴重な出土品があることを初めて知った」、「町の歴史の勉強になった」などの感想があり、地域の遺跡や歴史に対する興味と感心を高める一助となったことは大きな成果であった。今後も開催地の教育委員会との連携を深める取り組みを続けていきたい。

### ② 公開講座

なお、新型コロナウイルス感染症の影響のため親子考古学教室が1日(2回)とまいぶんセンターまつりが中止となり、9月に予定をしていた2講座については日程を延期して開催した。

今年度の参加者数は、1,567人(昨年度1,451人)と対前年度比約8%増となっている。定員に対しての充足率は約99%で、申し込み時には定員を満たしておりキャンセルに



写真11 地域展ポスター



写真12 地域展展示風景(大方あかつき館)



写真13 地域展VR遺跡地図利用状況

よる空きの間い合わせがある状況だが、当日の急な不参加により定員を割る結果となっている。

現地を訪れるフィールドワーク形式の講座(山城講座と城歩き、考古学から学ぶ史跡の見方)は、募集開始からすぐに定員に達するなど人気の高さを表している。行事別の参加者数では、例年どおり親子考古学教室参加者が圧倒的に多く、年間の入館者数の約26%を占めている。夏休みの恒例行事として定着しリピーターも多く、親子が一緒に勾玉製作や火起こしの体験を楽しむ姿や三代代で参加する姿も見られる人気のある講座である。

次に、参加者の年齢・性別について見てみると、体験型の講座である古代ものづくり体験教室では、40歳以上の女性が大半を占めリピーターが多かったが、近年は家族連れでの参加者が増え、小学校低学年や就学前児童の参加も増えている。体験前には講話を行い、古代の人たちの技術や知識、工夫を分かりやすく話すことで、楽しく体験するだけでなく、考古学への興味・関心のきっかけとしている。一方、まいぶん講座や遺跡解説会など考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座では、50~70代男性の参加者が中心であるが女性の参加者も増えてきている。考古学に興味



表8 令和3年度公開講座参加者数

年度	合計	内訳							
		まいぶん講座	遺跡解説会	先生のための考古学入門講座	親子考古学教室	古代ものづくり体験教室	考古学研究最前線解説会	考古学から学ぶ史跡の見方	山城講座と城歩き
平成13年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成14年度	48人	-	-	-	48人	-	-	-	-
平成15年度	109人	-	-	-	109人	-	-	-	-
平成16年度	175人	-	-	-	175人	-	-	-	-
平成17年度	120人	-	-	-	120人	-	-	-	-
平成18年度	406人	136人	-	-	270人	-	-	-	-
平成19年度	438人	110人	138人	9人	146人	35人	-	-	-
平成20年度	1,100人	83人	173人	10人	686人	148人	-	-	-
平成21年度	1,170人	99人	106人	6人	870人	89人	-	-	-
平成22年度	1,468人	80人	137人	7人	1,177人	67人	-	-	-
平成23年度	1,442人	87人	99人	3人	1,129人	124人	-	-	-
平成24年度	1,257人	69人	78人	15人	938人	157人	-	-	-
平成25年度	1,436人	66人	101人	5人	1,132人	132人	-	-	-
平成26年度	1,453人	52人	69人	6人	1,203人	123人	-	-	-
平成27年度	1,648人	46人	111人	2人	1,395人	94人	-	-	-
平成28年度	1,607人	80人	99人	3人	1,286人	139人	-	-	-
平成29年度	1,631人	53人	66人	0人	1,151人	171人	50人	140人	-
平成30年度	1,718人	75人	88人	10人	955人	194人	44人	142人	210人
令和元年度	1,703人	36人	90人	5人	880人	301人	81人	115人	195人
令和2年度	1,451人	93人	25人	7人	868人	230人	65人	63人	100人
令和3年度	1,567人	31人	93人	9人	921人	258人	56人	89人	110人
合計	21,947人	1,196人	1,473人	97人	15,459人	2,262人	296人	549人	615人

※平成25年度から発掘調査報告会は遺跡解説会、令和元年度より授業にいかせる考古学教室は先生のための考古学入門講座に、平成30年度から考古学からわかる歴史教室はまいぶん講座に名称を変更。

を持ちつつ、より深く歴史を学びたい方が参加している。

このように、講座によって年齢・性別にやや異なる傾向が窺えるものの、内容については参加者から好評を得ている。より幅広い参加者を得られるように体験型、座学ともにテーマや進め方に常に工夫を凝らしていかねばならない。

また、フィールドワークの実施にあたっては、現地での参加者の駐車場の確保や安全面での配慮など課題もあるため、地元の教育委員会や史跡の活用や保護活動を行っているグループなどとの連携を図りながら取り組んでいく必要がある。

#### i 遺跡解説会

1回90分間の講座で、埋蔵文化財センターが近年実施した発掘調査で明らかになった遺跡の様子や地域の歴史などの調査成果について、写真や図面とともに出土した遺物も提示して分かりやすく解説を行なった。今年度は4回開催し、第2回は新型コロナウイルス感染症対策のため、日程を延

表9 令和3年度遺跡解説会

開催日	講座内容	担当者
第1回(4月29日(木・祝))	若宮ノ東遺跡	綾部侑真
第2回(2月11日(金・祝))	新堀川護岸	下木千佳
第3回(11月7日(日))	森山城跡	徳平涼子
第4回(1月10日(月・祝))	高知城跡石垣改修	筒井三菜

## 2. 指定管理事業



写真14 第1回遺跡解説会(若宮ノ東遺跡)



写真15 第2回遺跡解説会(新堀川護岸)

期して開催した。総参加者数は93人であった。

### ii まいぶん講座

平成25年から29年度にかけて開催した各時代の遺跡や遺物などを紹介する「考古学からわかる歴史教室」に代えて、平成30年度から埋蔵文化財や遺跡の基礎知識と発掘調査の方法など初心者向けの内容として開催している。

今年度は遺構と遺物についての基礎知識をテーマとして第1回は「石器の基礎知識」第2回は「遺構の基礎知識」の計2回を行い、参加総数は31人(昨年度4回93人)であった。

参加者のアンケートから「石器の種類や作り方などがわかった」「遺構がどんなものかがわかった」などの感想を得られ、新たな受講者層を広げる感触を得られた。今後も、より魅力のあるテーマを用意して参加者増につなげる必要がある。

### iii 先生のための考古学入門講座

学校現場の先生に考古学に関心を持ってもらい、埋蔵文化財センターとの連携を深めるとともに、授業に活かせる知識の習得や体験をしてもらうために開催している。内容は高知県の遺跡や埋蔵文化財行政の概説、発掘体験、整理作業体験、館内見学及び展示遺物解説である。

県教育センターが案内している教員研修一覧に掲載してもらうとともに、開催周知のため6月に県内各校に案内文書を送付して募集を行った。今年度は、8月2・5日のうち参加者の希望

表10 令和3年度まいぶん講座

開催日	講座内容	担当者
第1回(6月27日(日))	石器の基礎知識	坂本裕一
第2回(2月13日(日))	遺構の基礎知識	坂本裕一



写真16 第1回まいぶん講座(石器の基礎知識)



写真17 先生のための考古学入門講座(整理作業風景)

日を調整して開催日を決定することとした結果、9名の申込があり希望日を調整して2日に分けて実施した。申し込み締め切り後に数人の参加の問い合わせがあったが、受け入れ人数の関係でお断りせざるを得なかったのが残念である。講座が口コミなどで認知され、徐々にではあるが希望者が増えているため、内容や受け入れにも工夫が必要である。

#### iv 古代ものづくり体験教室

平成24年度から「勾玉づくり」「ガラス玉づくり」「銅鏡づくり」「土器づくり(土器焼き)」の4つのメニューでスタートし、平成27年には「琥珀勾玉づくり」及び「編布づくり」、平成29年度は「銅鏡づくり」と新しいメニューを加えてきた。令和元年度からは「ガラス玉づくり」に代えて鋳型でガラスを溶かして造る「ガラス勾玉づくり」を新たに加えた全6メニューとした。

本年度も新型コロナウイルス感染防止対策として各回の定員を減らし、「編布づくり」と「ガラス勾玉づくり」を10人、「勾玉づくり」、「銅鏡づくり」、「土器づくり」をそれぞれ15人として実施した。全19回の開催予定であったが、土器焼きは新型コロナウイルスの影響により中止となった。参加総数は258人(昨年度230人)で、対前年度比約12%増と多くなったが、昨年度は中止が2回あり各回の定員はほぼ満たしている。リピーターが多い傾向も見られ、近年は家族での参加が増加しており、低学年や就学前の児童の参加も増えている。今後とも魅力的なメニューの開発や幅広い層に届く広報を続けていく。

#### v 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子による体験型講座である。県内の小学生全員に案内チラシを夏休み前に配付し、募集を行っている。

今年度も埋蔵文化財センターの他にも館外会



写真18 古代ものづくり教室(ガラス勾玉づくり)



写真19 古代ものづくり教室(銅鏡づくり)



写真20 親子考古学教室(勾玉づくり講義)



写真21 親子考古学教室(火起こし体験)

2. 指定管理事業

表11 令和3年度親子考古学教室実績一覧

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
※ 7月22日(水・祝) (宿毛市)	11人	17人	11人	19人	58人	※ 8月9日(月・振休) (須崎市)	12人	17人	11人	17人	57人
※ 7月23日(金・祝) (四万十市)	14人	20人	15人	16人	65人	8月11日(水)	10人	18人	13人	18人	59人
7月25日(日)	19人	20人	14人	17人	70人	8月13日(金)	12人	14人	13人	18人	57人
7月28日(水)	13人	21人	12人	18人	64人	※ 8月15日(日) (本山町)	15人	16人	16人	19人	66人
7月30日(金)	14人	19人	17人	14人	64人	8月17日(火)	14人	18人	12人	16人	60人
※ 8月1日(日) (四万十町)	14人	20人	13人	16人	63人	8月19日(木)	8人	16人	11人	16人	51人
8月3日(火)	13人	17人	11人	16人	57人	8月22日(日)	中止				
※ 8月4日(水) (安芸市)	15人	18人	13人	16人	62人	合計	201人	267人	197人	256人	921人
8月8日(日)	17人	16人	15人	20人	68人						

※は館外で実施

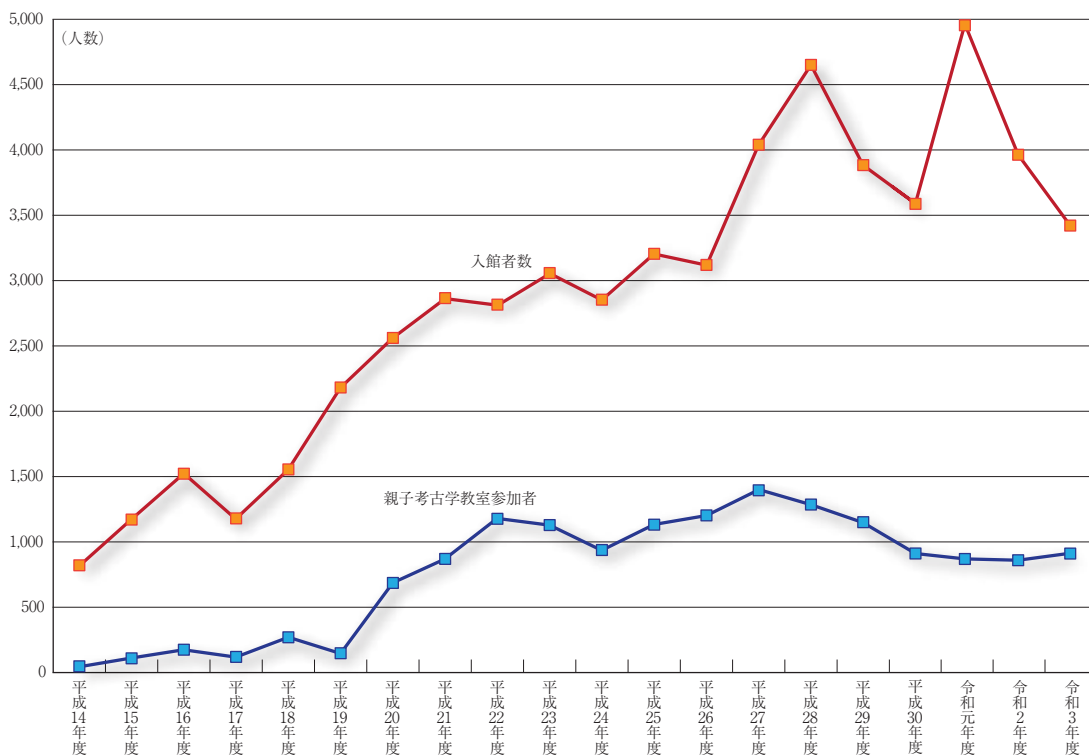


図7 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合



写真22 親子考古学教室(宿毛市会場)



写真23 親子考古学教室(四万十町会場)

場として宿毛市・四万十市・四万十町・須崎市・安芸市・本山町で開催し、各会場で午前と午後の2回、合計32回実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で1日(2回)中止となった。例年参加者が少ない回のあった館外会場でも、概ね定員を満たす参加が得られ、各地域で本事業が定着してきていると考えられる。

参加者数は921人(大人398人、子ども523人)であった。対前年度比は6%増(昨年度34回868人)で、行事や来館者数が減少している中で唯一の増加である。参加した保護者からは、夏休みの旅行やイベントなどが中止になる中、参加できるイベントがあってありがたいとの声も多く聞かれ、こうした状況が参加者増に反映されたと思われる。感染などの心配のない状況になってからも多くの方に参加していただけるよう取り組みを続けていきたい。

#### vi 考古学研究最前線解説会

平成29年度から新たな取り組みとして始めた解説会で、埋蔵文化財センター職員が積み重ねてきた考古学の研究成果を踏まえ、新しい知見や最新情報を解説する専門性の高い講座として開催している。今年度は「土佐の近世墓について」と「土佐市高岡の遺跡と大平氏について」をテーマに2回実施し56人の参加があった。この講座では、考古学の専門的な内容を維持しつつ、歴史や現代社会の事象と絡めながら参加者に分かりやすい資料の提示や話し方を行うことが重要と思われる。講師を務める調査員にとっても自分の研究成果を発表し広めていける場と捉え、講義を行うことにより、資質の向上に繋がることが期待できる。

#### vii 考古学から学ぶ史跡の見方

平成29年度からの新たな取り組みとして開催している講座で、埋蔵文化財センター職員や外部講師が引率して県内外の史跡になっている遺跡を訪れ、遺跡の立地や周辺の風景にも触れてもらい地域の歴史の中に身を置くことで、文化財に対する興味や関心を高めて、地域の史跡・遺跡の保護や活用に目を向けてもらう企画である。

今年度の第1回の田村城館跡では、歴史地理学で推定された城館の範囲や堀の場所と発掘調



写真24 考古学研究最前線(第2回講座風景)

## 2. 指定管理事業

査で確認された堀などの遺構の場所を現地の地形を見ながら確認をした。第2回の古代山城の屋嶋城では、国史跡となり復元された城門石垣などの遺構や屋島の立地と歴史について、実際に発掘調査に携わった高松市埋蔵文化財センター職員から説明を受けた。第3回の高知城跡は、高知城の歴史を知る上で重要な手がかりとなる石垣の構造を主体に、県教委文化財課の協力を得て追手門や詰門の内部も見学することができた。それぞれに発掘調査の成果や古絵図等の資料を紹介しながら、地域の歴史での位置付けなどの説明を行うことで、参加者は当時の風景を思い浮かべながらフィールドワークを行った。新型コロナウイルス感染防止対策として各回の定員を30名に減らして実施し、合計89人の参加を得られた。

### viii 山城講座と城歩き

近年、関心の高まっている山城の発掘調査による研究成果や魅力について座学2回とフィールドワーク2回を行っており、合計110人の参加を得られた。

座学では、城郭について基礎知識とともに近年の考古学の話や地域の歴史にも触れながら分かりやすく解説を行った。フィールドワークでは浦戸城跡(高知市)と佐川城跡(佐川町)を訪れ、現地で遺構を見ながら各城跡の特徴について解説を行った。

また、フィールドワークには、一般参加者とともに地元の教育委員会や史談会などに地元参加枠を設けており、地域の歴史文化活動と連携することができる機会となっている。



写真25 考古学から学ぶ史跡の見方(田村城館跡)



写真26 考古学から学ぶ史跡の見方(屋嶋城 香川県)



写真27 山城講座と城歩き(浦戸城跡)



写真28 山城講座と城歩き(佐川城跡)

### ③出前考古学教室

#### i 概要

今年度で24年目となり当センターの広報普及事業の中核となっている。職員が学校等に出向き授業や体験学習を行うもので、実施数は平成18年度以降徐々に増加し、今年度までで1,367の学校・団体で1,320回（複数校合同開催や1校複数開催含む）実施し、参加人数は55,463人を数える。当初は6年生の歴史授業のみであったが、近年は学校の授業（出前A）以外にも学年行事や学童クラブなどの学校関係行事等（出前B）や公民館や博物館等の学校以外の団体等（出前C）からの依頼もあり、便宜上出前A・B・Cと呼称している。前期（5月中旬～7月）と後期（9月～2月）に分けて実施し、各メニューを申込校の希望や活動時間などに応じて組み合わせて実施している。

今年度は、実施回数66回、参加者数は2,316人を数えた。新型コロナウイルス感染症の影響で当初の予定を延期して実施したり、中止した学校があった。学校関係（出前A・B）以外の出前Cでは芸西村教育委員会のオリンピック聖火リレー関連行事や土佐清水市立図書館からの申込があり、地域の家族や歴史に興味のある大人向けにも体験活動や展示解説を実施した。こうした依頼も徐々にではあるが増えてきている。実施後のアンケートには、遺跡や遺物、体験学習を通して、地域の歴史に興味をもち、昔の人の知恵や技術に感心する感想が多く見られたことは事業の成果としてあげることができる。

#### ii 内容

##### a. 考古学授業「地域の遺跡」

授業は小学校6年生の歴史学習の一環としての実施が中心である。中学校や高校などは、希望に沿った内容で行っている。日本の歴史や代表的な遺跡の学習はしているが、地域の遺跡について知りたいという希望が多いため、各校ごとに遺跡地図を作成し、身近な遺跡や地域の歴史について紹介している。また、遺物や遺構などの用語解説や発掘調査や整理作業の進め方などについての簡単な解説も含めてパワーポイントを使って約30分間で行っている。

##### b. 遺物展示解説

本県の遺跡から出土した遺物から、旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世の各時代から抽出し展示を行い、それぞれの時代の特徴などを分かりやすく解説するとともに、土器や石器に触れる時間を設けている。本物を見て触れる体験から古代の人々の生活に興味や関心を高め、現代の生活との違いや関係についても考えるきっかけとなるように説明に工夫をしている。

##### c. 体験学習

火起こしは、簡単に火をつけることのできる便利な道具のある生活に慣れている児童生徒に、道具のなかった時代の人たちがどのようにして火を起こしたのかを体験してもらう活動である。火きり板とマイギリを使って火を起こし、成功したらキリモミ式にもチャレンジする。初めて体験する火起こしは、コツをつかむまでは体力、根気も必要で簡単にはできないが、何度もチャレンジすることで古代の人々の苦労を体感することができる。また、一度着いた火ができるだけ消さないように工夫をしていたことも説明し、先人の知恵を知る機会となっている。

勾玉づくりは、材料として柔らかく簡単に加工のできる滑石を使用している。まず、パワーポイントを用いて、勾玉について形の意味や使われ方などの基本知識の解説を行い、高知県の出土勾玉についても紹介した後、作り方の説明を行っている。製作作業は、石に勾玉の絵を描き、余白をノ

2. 指定管理事業

表12 平成10～令和3年度出前考古学教室実績一覧

No.	年 度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業児童生徒数	参加児童生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	〃	〃	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	〃	1,352人	3,789人
4	平成13年度	〃	〃	26回	27校	〃	1,060人	2,233人
5	平成14年度	〃	〃	27回	31校	〃	944人	2,541人
6	平成15年度	〃	〃	29回	31校	〃	1,232人	2,121人
7	平成16年度	〃	〃	31回	41校	〃	1,083人	1,083人
8	平成17年度	〃	〃	33回	34校	前・後期	1,049人	1,357人
9	平成18年度	〃	〃	51回	60校	〃	1,772人	1,703人
10	平成19年度	〃	小・中学校	51回	69校	〃	2,058人	2,467人
11	平成20年度	〃	〃	52回	64校	〃	1,688人	2,088人
12	平成21年度	〃	小・中・高等学校	48回	53校	〃	1,369人	1,438人
13	平成22年度	〃	〃	65回	66校	〃	2,470人	2,571人
14	平成23年度	〃	〃	61回	64校	〃	2,045人	2,223人
15	平成24年度	〃	〃	79回	71校	〃	2,710人	2,937人
16	平成25年度	〃	〃	87回	79校	〃	3,184人	3,242人
17	平成26年度	〃	〃	97回	94校	〃	3,660人	3,660人
18	平成27年度	〃	〃	92回	85校	〃	3,052人	3,052人
19	平成28年度	〃	〃	101回	97校	〃	3,375人	3,375人
20	平成29年度	〃	〃	75回	76校	〃	2,569人	2,569人
21	平成30年度	〃	〃	77回	79校	〃	2,602人	2,602人
22	令和元年度	〃	〃	73回	67校	〃	2,423人	2,423人
23	令和2年度	〃	〃	53回	47校	〃	1,906人	1,906人
24	令和3年度	〃	〃	66回	66校	〃	2,316人	2,316人
合計				1,320回	1,359校	—	46,874人	55,574人

コギリで切りサンドペーパーで削って成形し、仕上げ磨きまでを約60分間で行う。出来上がった勾玉は一人一人の形や色が違い、世界で一つだけのものが作れる喜びは毎年変わらず人気である。

iii 本年度の成果と今後の取り組みについて

a. 実施回数や実施校について

これまでの取り組みの成果によって、毎年申し込みのある学校や複式学年の学校では隔年で申し込みがあるなど、6年生の歴史学習の一部として定着している学校も増えている。実施傾向としては、小学校の歴史授業の進捗に合わせて考古学教室を希望する学校が多く、前期に申し込みが集中している。後期は学校行事等の関係からか希望校が少ない状況は変わっていない。

児童数減少、教育課程の変更等により、年間を通じて実施回数は減少傾向にある。また、県中部や西部に比べると東部地域からの申し込みが少ない。本県は人口減少傾向にあり、特に郡部では学校数も統廃合により減ってきている状況にあるが、地域の歴史学習として活用してもらえるように取り組みを続けていく。また、中学・高校など幅広い学校関係とともに地域の社会教育活動や団体活動でも利用してもらえるように広報活動にも積極的に取り組んでいきたい。

b. 内容について

授業は、視聴覚機器を使い図や写真などを提示して分かりやすい教材作成を心がけており、遺跡



表13 令和3年度出前考古学教室実績一覧(前期授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数	備考
1	5/6 (木)	高知市	旭東小学校	6	2	50人	
2	5/10 (月)	須崎市	南小学校	6	1	5人	
3	5/11 (火)	四万十市	西土佐小学校	6	1	13人	
4	5/12 (水)	佐川町	黒岩小学校	5・6	1	12人	
5	5/13 (木)	土佐市	波介小学校	6	1	6人	
6	5/14 (金)	いの町	伊野小学校	6	1	48人	
7	5/18 (火)	四万十町	仁井田小学校	5・6	1	12人	
8	5/20 (木)	土佐清水市	下ノ加江小学校	6	1	9人	
9	5/21 (金)	四万十市	東山小学校	6	2	39人	
10	5/24 (月)	高知市	第四小学校	6	2	61人	
11	5/26 (水)	須崎市	浦ノ内中学校	1～3	3	46人	
12	5/27 (木)	高知市	潮江東小学校	6	2	60人	
13	5/28 (金)	高知市	十津小学校	6	2	42人	
14	〃	南国市	長岡小学校	6	1	30人	
15	5/31 (月)	宿毛市	平田小学校	6	1	3人	
16	6/1 (火)	宿毛市	大島小学校	6	1	17人	
17	6/2 (水)	南国市	鳶ヶ池中学校	1	2	60人	
18	6/3 (木)	高知市	長浜小学校	6	2	58人	
19	6/4 (金)	高知市	潮見台小学校	6	2	40人	
20	6/7 (月)	日高村・佐川町組合立	加茂小学校	6	1	19人	
21	〃	佐川町	尾川小学校	5・6	1	11人	
22	6/8 (火)	南国市	白木谷小学校	5・6	1	7人	
23	〃	〃	稲生小学校	6	1	16人	
24	6/9 (水)	本山町	本山小学校	6	1	12人	
25	6/10 (木)	四万十市	大用小学校	5・6	1	5人	
26	6/11 (金)	宿毛市	山奈小学校	6	1	21人	
27	6/16 (水)	須崎市	吾桑小学校	6	1	9人	
28	〃	いの町	伊野南小学校	6	1	25人	
29	6/18 (金)	高知市	久重小学校	6	1	11人	
30	6/20 (日)	南国市	国府小学校(出前B)	6	1	37人	B
31	6/21 (月)	高知市	一ツ橋小学校	6	2	65人	
32	6/24 (木)	高知市	はりまや橋小学校	6	2	60人	
33	〃	高知市	大津小学校	6	3	92人	
34	6/28 (月)	宿毛市	咸陽小学校	6	2	42人	
35	6/29 (火)	土佐清水市	三崎小学校	5・6	1	17人	
36	6/30 (水)	四万十市	中村南小学校	6	2	39人	
37	7/1 (木)	土佐市	宇佐小学校	6	1	18人	
38	7/2 (金)	香美市	山田小学校	6	3	79人	
39	7/5 (月)	大月町	大月小学校	6	1	27人	
40	7/6 (火)	津野町	葉山小学校	6	1	25人	
41	〃	越知町	越知小学校	6	1	30人	
42	7/7 (水)	土佐市	戸波小学校	6	1	17人	
43	〃	〃	高岡第二小学校	6	1	9人	
44	7/8 (木)	四万十市	田野々小学校	5・6	1	16人	
45	7/9 (金)	高知市	昭和小学校	6	4	113人	
46	7/12 (月)	香南市	赤岡中学校	1	1	16人	
47	7/13 (火)	高知市	旭小学校	6	2	63人	
48	7/15 (木)	土佐町	土佐町小学校	6	1	22人	
49	8/16 (月)	芸西村	芸西村教委(出前C)	小学生	-	20人	C
合計(前期分)						1,554人	

2. 指定管理事業

表14 令和3年度出前考古学教室実績一覧(後期授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数	備考
50	9/14(火)	黒潮町	三浦小学校	5・6	1	14人	
51	9/16(木)	高知市	横浜新町小学校	6	3	86人	
52	10/8(金)	〃	鴨田小学校	6	4	120人	
53	10/13(水)	土佐市	蓮池小学校	6	1	32人	
54	10/19(火)	高知市	一宮東小学校(出前B)	5	2	63人	B
55	10/21(木)	〃	鏡小学校	5・6	1	13人	
56	11/4(木)	安芸市	伊尾木小学校	5・6	1	6人	
57	11/10(水)	高知市	五台山小学校	6	1	12人	
58	11/11(木)	須崎市	浦ノ内小学校	6	1	16人	
59	11/16(火)	高知市	春野西小学校	6	1	37人	B
60	11/22(月)	香美市	舟入小学校(出前B)	5	1	15人	
61	11/30(火)	高知市	秦小学校	6	3	110人	
62	12/3(金)	高知市	高知県立北高校	1～3		28人	
63	12/10(金)	佐川町	佐川小学校	6	2	48人	
64	12/11(土)	土佐清水市	市民図書館(出前C)	一般		15人	C
65	12/17(金)	高知市	鏡小学校(出前B)	4	1	10人	B
66	1/12(水)	南国市	大篠小学校	6	4	137人	
合計(後期分)						762人	

表15 令和3年度出前考古学教室実績一覧

	A			B		C		合計	
	回数	実施校	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
前期	47回	47	1,497人	1回	37人	1回	20人	49回	1,554人
後期	13回	13	637人	3回	110人	1回	15人	17回	762人
合計	60回	60校	2,134人	4回	147人	2回	35人	66回	2,316人

や地域の歴史に興味をもったという感想を多く得ている。特に実施校周辺の遺跡についてピックアップし、学校周辺の遺跡地図を作成し、自分たちの身近な所に遺跡があることに理解を深めてもらうように心がけている。展示解説では、遺物の解説だけでなく古代人が実際に使った遺物を見て触れることで、形や手触り、重さなどを実感できる体験は貴重である。また、実施校周辺の遺跡から出土した遺物があれば、学校に持ち込み展示で紹介するようにしている。火起こし体験は、火をつけることができた時の驚きや喜びも忘れることができないものとなっているようである。勾玉づくりは根気よく取組まねばならないが、努力が形となったときに、古代の人々の思いを共有できるのではないかと思う。さらに時間的余裕があれば、充実・展開できるものと思われる。



写真29 出前考古学教室(授業風景)



写真30 出前考古学教室(展示解説)



写真31 出前考古学教室(勾玉づくり風景)



写真32 出前考古学教室(火起こし風景)

### c. 学校側の受入れ態勢について

前年度の3月下旬までに実施日を決定し、4月から内容の打ち合わせを行った。体験学習のみを希望する場合にも、可能な限り遺跡の学習や解説を組み込んでもらい、活動の趣旨を達成できるよう努めた。当日は、必要な機器類や道具等の準備について、学校や担当教員の協力を得ることができた。

### d. 火起こし道具について

舞錐式(マイギリ)と錐揉み式(キリモミ)の道具を使用している。マイギリは消耗と破損が多く、毎回点検や修理をして使用している。安定してより良い道具を調達していくことが課題である。先端の芯棒は、檜丸棒を使用している。一方、キリモミには調達のしやすい竹やウツギを利用しているが、より適した素材の検討は続けていく。火種受けには脱脂綿を使用しているが、雨の日など湿度の高い日は火種からの着火に苦勞する場面が見られる。芯棒と火きり板は消耗品であり大量に使用するため、業者に製作を依頼し調達している。今後どのような道具を加工、製作、調達していくのか検討中であり、安定的に調達できる手だてが必要である。

### e. スタッフについて

2名の担当職員を中心として行っているが、児童の多い大規模校では他の企画調整担当職員や整理作業員の協力を得るなどして弾力的に対応した。特に前期は過密日程となるため、企画調整担当職員全員で担当を交代しながら実施している。

### f. むすび

実施後のアンケートでは、遺跡や遺物、体験学習を通して、地域の歴史に興味を持つことや、先人の知恵や技術に対して驚きや感心を持つ感想が多く寄せられたことは、出前考古学教室の成果としてあげることができる。

また、児童生徒や教職員だけでなく、保護者にも学年行事やPTA活動、博物館等での出前考古学教室を通して、地域の歴史や埋蔵文化財に関心をもってもらえる機会となっており、今後も貴重な埋蔵文化財の広報普及活動として取り組んでいく。

## ④ 情報公開

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開事業として、ホームページの管理更新を行った。ホームページでは、県内埋蔵文化財に関する基礎情報として、各時代の代表的な遺跡の紹介や発掘調査

## 2. 指定管理事業

情報の掲載、開催している展示や講座等の情報を提供するとともに、発掘調査報告書及び展示パンフレット、年間行事カレンダーなどを電子データ(PDF)として公開し、インターネットを介して閲覧・ダウンロードを可能とすることで埋蔵文化財資料の公開活用に資している。

### i ホームページ

ホームページに関しては、見やすく分かりやすく使いやすいWebサイトを目指して、平成29年度にコンテンツマネジメントシステム(CMS)の導入を行い、職員によるコンテンツの作成・更新の容易性と情報提供機能の充実をするとともに、公開講座へのWeb申し込みやスマートフォンやタブレット端末による閲覧などに対応したリニューアルを実施した。また、Facebookのアカウントを取得してSNSを活用した情報発信も行っている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により各地で外出制限等が多くなりweb環境の需要が拡大している点を視野に入れ、埋蔵文化財センターのホームページをより見やすく快適に、講座申込等の利便性を高めるため、ホームページを一部リニューアルした。改善点は、より見やすく親しみの持てる外観の変更とSNS(Facebook)等の画面配置の変更、講座等の申込フォームを新たに追加し利便性を向上させた。また、昨年度に合わせて公開講座に参加できなかった方のために、講座等の動画をホームページにて一部公開した。

今後も埋蔵文化財センターをより県民に広くアピールするために、魅力的なコンテンツ配信や利便性の改善に努める必要がある。

### ii Web公開データベース

平成16年度から始めたWeb公開データベースのうち、遺跡台帳のデータベースは高知県教育委員会文化財課の「高知県文化財地図情報システム」に引き継がれ、遺跡情報と高知県埋蔵文化財センターが刊行した発掘調査報告書、年報、現地説明会資料等の印刷物をPDF化して公開している。

特に今年度は、独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所の刊行する『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用』において埋蔵文化財センターのここ数年来の情報公開のあり方を報告した(松田直則・山崎孝盛 2021「法人調査組織における報告書等の電子化と情報公開について / Digitization and Information Disclosure of Reports in Corporate Research Organizations」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用3』奈良文化財研究所)。

### iii 取材対応

従来からマスコミへの告知情報の発信や取材には積極的に対応している。今年度は、企画展に係る講演会「山城の魅力～その見方、歩き方～」及びその翌日の山城巡り(佐川城跡)において、地元テレビ局の夕方情報番組「からふる」(KUTV テレビ高知)の取材を受け、その様子が放送され、内容はYahoo ニュースにも取り上げられた。



写真33 ホームページ

iv 刊行物

埋蔵文化財センターの活動記録として令和2年度の業務実施内容をまとめた『年報30号』を発刊した。

⑤ 団体見学及び研修等の受け入れ

施設や展示の見学，体験学習（勾玉づくりや火起こしなど）を行う団体見学は，小学校を中心に各種団体，グループなどの利用があり，今年度は，10団体268人（昨年度13団体391人）を受け入れた。

また，近年は中学生の職場体験を受入れている。発掘現場での掘削作業と遺構の測量・図作作業，整理作業では土器の洗浄，注記，接合，実測及び遺跡の概要調査として校区の遺跡の位置図と一覧表の作成を行い，短い期間ではあるが埋蔵文化財センターの業務を体験してもらっている。本年度については新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校側が職場体験学習を中止したため，実施はなかった。

発掘調査の現地説明会は金政遺跡で10月2日（参加者34人）に地元向けの説明会を開催し，成願遺跡では12月19日（参加者130人）に説明会を開催した。比較的多くの参加者を得ていることから遺跡や地域の歴史への関心の高さがうかがえた。



写真34 団体見学(展示見学)



写真35 団体見学(整理作業見学)

⑥ 県保有文化財(遺物・写真)の貸出等

文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として，博物館等での展示や出版物への掲載，研究目的の資料調査などについて，出土遺物や写真，図書資料などの貸出しを行っている。また，学校の授業等で活用できる土器や石器の貸出セットも用意している。

今年度は，出土文化財に関する借受の申請が20件，文化財写真（画像）掲載許可等の申請が12件となっており，いずれの申請も文化財の活用や保護推進を目的としたものであった。主要な貸出先は，大阪府立弥生文化博物館，高知県立歴史民俗資料館，高知県立高知城歴史博物館，高知大学などである。

⑦ 広報活動

ホームページやFacebookなどのWEB利用とともに，配布物による広報活動も行なっている。これまで行ってきた学校関係をはじめとする各種団体への働きかけとともに，新聞やテレビ放送など報道機関での記事掲載や告知放送，県広報枠でのラジオ告知，県及び市町村広報誌や民間情報誌

## 2. 指定管理事業

への掲載なども行っている。

年間行事カレンダーや公開展示などのポスター・チラシ等の配布については、これまで教育関係機関や学校、県内の歴史系博物館を中心に行っていたが、令和元年度から歴史系以外の博物館や資料館16ヶ所と道の駅などの観光施設73ヶ所へも配布を行い、入館者の増加につながっている。

これまで取り組んできた広報普及事業の積み重ねにより埋蔵文化財センターの知名度や関心は着実に向上してきており、展示会や公開講座等へのリピーターなど一定数の来館数は確保しているとみられ、引き続き広報活動に力を入れていく必要がある。

### ⑧ その他の取り組み

ロビーには、DVD視聴コーナー、書籍コーナー、高知県遺跡地図、立体土器パズル、復元衣装展示などを設置し、大人だけでなく児童も楽しみながら遺跡や考古学について学べるスペースとしており、展示期間以外の来館者の利用にも対応している。また、希望者には展示の開催時期に合わせて年間4回展示会チラシと行事案内を送付している。今年度は名簿の整理を行い、約130名に送付した。

また、平成30年度から始めた公開展示の観覧や公開講座の受講を対象としたスタンプラリーは、毎年楽しみにしている方もおり、従来のリピーターに加えて新しいリピーターの獲得に効果を得られている。



写真36 ロビー展示(立体土器パズル)



写真37 特設コーナー(弥生集落復元パズル)

### ⑨ 各種イベント等への参加・協力

民間商業施設を会場に財団本部が主催する「bunkazaidan こどもクラブ」への参加行事である「まいぶん出前考古学教室 in イオンモール高知」は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。このイベントでは、銅鏡づくり、立体土器パズル、各時代の出土遺物展示、クイズラリー、古代衣装体験、埋文センターキャラクターのペーパークラフトづくり、DVD鑑賞、キャラクター着ぐるみとの触れ合いなどを行い、家族連れや子どもたちを中心に例年100人以上の参加が得られていた。ほとんどの参加者は施設に買い物に来た際に通りすがりに参加した家族連れや学生であり、アンケートでは埋蔵文化財センターの存在を初めて知った人や、実物の土器などを初めて見る人が多く、当センターで開催している展示会や講座に興味を示してくれる方も多かった。このイベントは次年度も開催が決まっている。

また、昨年度に引き続き南国市観光協会が企画した「長宗我部 RALLY10」のスタンプラリー対象施設として参加した。こうしたイベントへの参加・協力は、当センター及び各種事業に興味を持ち来館のきっかけになるとともに、地域の遺跡や歴史に関心を持ってもらう良い機会となっている。

### (3) 研修事業

研修事業としては、考古学関係分野の専門家を外部講師として招く職員専門研修を年1回行うとともに、全国埋蔵文化財法人連絡協議会等に参加した。各研修内容は以下のとおりである。

#### ① 職員専門研修

調査員の資質向上を目的として開催をしている。今年度は國學院大学の柳田康雄氏を招き、「弥生時代文字文化の基本認識」のテーマで研修会を実施した。弥生時代の出土遺物の各地域における年代観などを共有し、氏の専門分野である方形板石硯についての講義を受けた。また、県内の遺跡から出土した弥生時代の方形板石硯と考えられる遺物を実見し、観察すべきポイントのレクチャーを受けた。研修には当センター職員のほか県内各市町村から南国市教育委員会、香南市教育委員会、香美市教育委員会、本山町教育委員会の4市町から参加があった。

表16 令和3年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	「弥生時代文字文化の基本認識」	令和3年11月29日～ 11月30日	柳田康雄	國學院大学客員教授



写真38 職員専門研修(講義風景)



写真39 職員専門研修(遺物の実見とレクチャー)

#### ② 埋蔵文化財担当者研修

令和3年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議は、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン会議により実施した。4名が参加し、管理者部会と調査部会に分かれ、協議、情報交換を行った。文化庁主催の令和3年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会は、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン配信による講習会となり、5名が受講した。

## 2. 指定管理事業

表17 令和3年度埋蔵文化財担当者研修実績一覧

No.	研修名	研修期間	研修場所	研修者
1	令和3年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(オンライン会議)	令和3年10月1日	高知県立埋蔵文化財センター	所長 松田直則 次長兼総務課長 橋田 歩 調査課長 吉成承三 チーフ 久家隆芳
2	令和3年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会 (オンライン受講)	令和4年2月2日～ 2月3日	高知県立埋蔵文化財センター	調査課長 吉成承三 調査員 綾部侑真 調査員 下木千佳 調査員 宮地啓介 主任調査員 山崎孝盛

### (4) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講師や活動指導者などの依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、今年度は6件の派遣を行った。

表18 令和3年度講師派遣・調査指導等実績一覧

日・期間	派遣職員	依頼元	内容	派遣場所
令和3年4月28日	吉成承三	南国市教育委員会	第6回土佐国分寺跡調査指導委員会	南国市役所
令和3年6月～ 10月末	山崎孝盛	NPO法人 むぎばんだ応援団	WEBサイト【全国子ども考古学教室】制作協力	-
令和3年8月～ 令和4年1月 (各月1回、計6回)	下木千佳 山崎孝盛 坂本憲昭 筒井三菜 徳平涼子 久家隆芳	土佐史談会	土佐史談会連続講座 「歴史考古学の発掘現場から」	オーテピア高知図書館
令和3年7月11日	徳平涼子	高知市春野町森山公民館	公民館歴史講座講師	森山公民館
令和4年1月17日	松田直則 吉成承三 筒井三菜	高知県教育委員会	令和3年度第1回史跡高知城跡整備計画推進委員会	高知共済会館
令和4年1月25日	徳平涼子	春野町文化財友の会	「森山城跡発掘調査の結果説明と時代背景等について」講師	高知市春野文化ホール



## IV 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 若宮ノ東遺跡(21-1NW)

所在地 南国市篠原

立地 台地縁辺部

時代 弥生時代～近世

調査期間 令和3年5月10日～6月30日

調査面積 356㎡

担当者 坂本憲昭・久家隆芳

調査内容 若宮ノ東遺跡は高知県が計画している都市計画道路高知南国線建設に伴い平成28年度から発掘調査を継続して実施しており、令和3年度が6年目にあたる。調査面積は累計で

10,000㎡を超える。これまでの発掘調査により弥生時代、古墳時代、飛鳥時代、古代、中世及び近世にわたる大規模な遺跡であることが判明している。弥生時代後期後半期～古墳時代初頭の竪穴建物跡の検出数は一遺跡では最多を誇り高知県内最大規模の集落遺跡である。飛鳥時代の大型掘立柱建物跡及びこの建物を区画する溝跡・堀跡を有する構造は県内で例をみない。奈良・平安時代では正倉と推測される総柱の掘立柱建物跡をはじめ多くの掘立柱建物跡が復元できる。これらの建物跡は柱筋を揃える等、それらの配置には企画性が認められ、官衙に関連する建物群として把握で



図8 若宮ノ東遺跡位置図



写真40 遺構完掘状態(北より)

## 1. 若宮ノ東遺跡

き、他にも溝跡、柵跡、井戸跡等も検出している。中世では調査対象地の西部を中心に溝で囲まれた屋敷群を検出し、有力者層の存在が示唆される。溝跡で囲まれた範囲内では柱穴群・井戸跡などを検出し、屋敷内の構造が推測できる。近世では、井戸跡、溝跡、いわゆるハンダ土坑、土墳墓などを検出している。出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・陶器・白磁・青磁・石製品・金属製品があり、そのうち弥生時代の内行花文鏡の破鏡、古代の墨書土器(「作」・「仲」)・刻書土器(「作」)は特筆すべきものである。



写真41 遺物出土状態(南西より)

今年度の調査区は若宮ノ東遺跡の東部に位置する。弥生時代では竪穴建物跡8棟を検出した。隣接する調査区においても同時期の竪穴建物跡を検出し、居住域内の建物配置がより鮮明となった。竪穴建物跡の平面形はすべて隅丸方形であり、竪穴建物跡同士の重複するものもみられる。出土遺物は弥生土器(壺・甕・鉢・高杯)、土製品(支脚・紡錘車・ミニチュア土器)、石製品(ベンガラが付着した磨石・叩石)、鉄製品(鉄鏃)である。これらの出土遺物から竪穴建物跡は弥生時代後期末～古墳時代初頭の時期のものともみられる。

飛鳥時代では大型掘立柱建物跡を区画する溝跡を検出した。この溝跡は北に隣接する調査区でも検出していたものの、調査範囲内では西肩は検出できなかったことから規模は不明であった。今年度の調査で最大幅約3.4mの規模であることが判明した。この溝跡からは7世紀代と考えられる土師器の甕、須恵器の提瓶等が出土している。西側を区画する溝跡と同時期であり、飛鳥時代に機能していた一連の区画溝である蓋然性が高まった。大型掘立柱建物跡の柱穴からは時期を確定できる遺物は皆無であり、間接的にはあるものの上述の溝跡からの出土遺物は建物跡を含めた官衙の時期・性格を検討する上で重要な意味を持つ。



写真42 区画溝(飛鳥時代)作業風景

古代では掘立柱建物跡を7棟検出した。一辺約0.9mの方形を呈する柱穴の建物跡もある。古代の掘立柱建物跡が集中するエリアであり、隣接する調査区の建物群とセットを成し官衙域を形成している。柱穴の形状・規模、棟方向の違いから複数時期の官衙が建て替えられていたと推測される。以上のように当遺跡は各時代とも南国市のみならず高知県の歴史を復元する上でも重要な意義を持つ遺跡である。(久家)

## 2. 森山城跡 (21 - 2HM)

所在地 高知市春野町森山

立地 独立丘陵・沖積地

時代 中世

調査期間 令和3年5月6日～令和3年12月2日

調査面積 1,530㎡

担当者 徳平涼子・田代雅美

調査内容 森山城跡は標高23mの独立丘陵に立地する戦国時代の山城跡で、南東には森山南城跡、北西には吉良城跡がみられるほか、西には仁淀川を望む重要な位置に所在する。今回の調査は、高知県が計画している県道甲殿弘岡上線建設に伴うもので、工事によって影響を受ける丘陵北西部の調査を令和2年度に行い、令和3年度は裾部の調査を実施した。

令和2年度の調査では、2つの曲輪と堀切1条、豎堀2条、通路状遺構、掘立柱建物跡1棟、土塁1基、堀跡1条等を確認した。曲輪2の遺構面は2時期あることが明らかとなり、下面は15世紀、上面は16世紀前半とみられる。下面は14世紀後葉から15世紀前半の出土遺物が比較的多いことから、14世紀代から使用されていた可能性もある。14世紀代から使用されていたと考えられる山城は、県内では春野町西分の木塚城跡もその一つであり、木塚城跡では森山城跡で出土している東播系須恵器や古瀬戸など14世紀の遺物もみられ、森山城跡の下面と同時期に機能していたと考えられる。上面は16世紀半ばには終焉を迎えているとみられ、廃絶時期は芳原城跡と同時期と考えられる。

また、大掛かりな造成を行っていたことも明らかとなった。小規模な山城でありながら、曲輪2では下面の上に幅約6m、高さ約5.5m、検出長30m以上の範囲に土を盛り、大掛かりな造成を行い、広い曲輪を造り出していた。このような大規模な造成を行っている山城は県内では少なく、高知県の山城を考える上で非常に大きな成果であり、また、上面の時期には有力な勢力がこの城を抑えていたものとみられる。森山城跡の発掘調査は今回が初めてであり、機能していた時期や城跡の構造等の一端を知ることができ、森山城跡の位置付けを考える上で貴重な資料を得ることができた。

今年度は山城跡北側と西側の裾部の調査を行った。山城北側では、東西方向に流れる幅約6mを測る自然流路を1条確認した。また、自然流路から森山城跡の虎口とみられる方向に向かって南北に

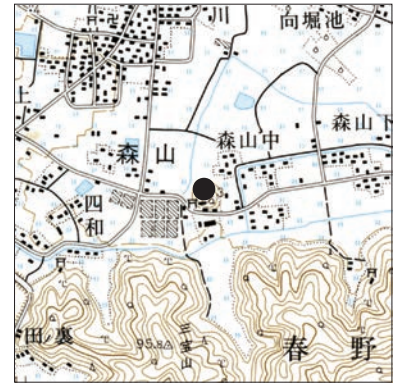


図9 森山城跡位置図



写真 43 自然流路から繋がる堀跡 (北上空より)

## 2. 森山城跡

伸びる、検出長約9m、幅約6m、深さ1.3mの堀跡2を検出した。南は虎口まで伸びず、直角に折れ、昨年度検出した土塁内側の東西方向の堀跡1と繋がっていたことも確認された。堀跡2の底には、意図的に底を高く掘り残し、その上に丸太を3本並べ、その脇に杭を打ち、板材を釘で打ち付けた遺構が確認された。自然流路から入ってくる水量を調整するための遺構とみられる。

山城西側は低湿地の様相を呈しており、幕末の土木事業により陸地化したことが明らかとなった。低湿地を陸地化するために、藁状の土嚢である吠を列状に配し埋め立てを行っていた痕跡が確認された。幕末の埋め立て以前は低湿地であったことがうかがえ、山城が機能していた時期には低湿地を天然の堀として利用していたものとみられる。堀跡の確認や低湿地の利用など、県内では数少ない山城裾部の状況を知る貴重な成果となった。

森山城跡の東には二ノ堀遺跡が隣接しており、森山城跡と共に令和2・3年度に調査を行った。二ノ堀遺跡は森山城跡と同様に、字名「二ノ堀」に位置し、今回が初めての調査となる。

発掘調査では、古代末から中世前期、中世後期から江戸時代初期、幕末と三時期の遺構と遺物が確認された。特に、中世後期の二重の堀で囲まれた屋敷跡は規模も大きく、2箇所確認されており、山城東側の広範囲に屋敷地が広がっていたものとみられる。堀跡は出土遺物より15世紀に機能していたとみられ、森山城跡と同時期に存在したことが明らかとなった。森山城跡に隣接する屋敷跡は森山氏に関連するものとみられ、また、中世前期の遺物も出土していることから、この時期から森山氏が活躍していた可能性がある。さらに16世紀後半から江戸時代初期の建物跡などの遺構は、「長宗我部地検帳」によると森山城周辺には香宗我部氏家臣の屋敷地がみられ、森山城が落城した跡もこれらの屋敷が存在したものとみられる。(徳平)



写真 44 二ノ堀遺跡遺構完掘状態（東上空より）

### 3. 新堀川護岸 (21 - 3KS)

所在地 高知市はりまや町

立地 沖積地

時代 近世～近代

調査期間 令和3年6月7日～令和3年6月30日

調査面積 30㎡

担当者 下木千佳

調査内容 新堀川護岸は高知県が計画している都市計画道路はりまや町一宮線単街路整備事業に伴い平成30年度から発掘調査を実施しており、令和3年度が4年目にあたる。1次調査では遺構面を確認するための部分的な発掘調査、石垣カルテの作成、レーダ探査を行った。2次調査では、石垣の移設に伴い影響を受ける部分について調査を行い、近世から近代にかけて4面にわたる遺構面を確認した。3次調査は石垣の移設を行うことから、石垣解体に伴う解体調査及び遺構の調査を行った。令和3年度の調査は新堀川護岸の西岸について旧新堀の痕跡調査を行なった。現在、はりまや町と桜井町・菜園場町を分断する南北の流れが新堀川と呼ばれているが、本来は横堀と称されていたと考えられる。そして、横堀から魚の棚商店街まで掘り抜かれたものが新堀である。明治になり、新堀が段階的に埋設されるなかで名前だけが残り、一帯が新堀川と呼ばれるようになったと考えられる。旧新堀の詳しい位置はわかっていないため、石垣の根入れ部分を掘削することで石垣の加工方法の違いなどから範囲を確認するべく調査を行なった。

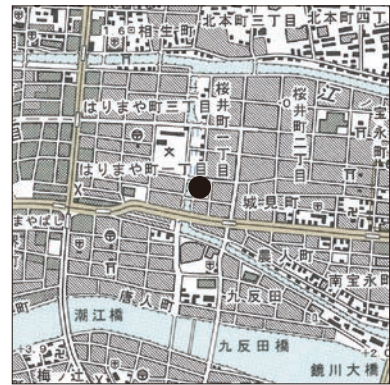


図10 新堀川護岸位置図



写真45 新堀川西岸(南より)

### 3. 新堀川護岸

新堀川護岸の西岸かつ新堀橋の南側にトレンチを2箇所設けて掘削を行なった。そのうちのひとつは1次調査のトレンチである。1次調査の掘削時に根入れより胴木とは別に材木を検出したことから、トレンチを広げてその続きを確認すること、そして残存している刃門の前後を掘削することで新堀の範囲確認を行うという目的であった。新堀橋の南かつ刃門の北は一次調査トレンチの拡張を行なった。先述した通り、性格不明の木材について長作を拡張することで全体像を確認し、石垣の立面を観察することで石質などから構造を確認した。刃門の南のトレンチでは埋設部分から下はすべてほぼ均一な石灰岩であった。石垣の胴木は梯子胴木であり、この構造は東岸の石垣には見られなかった。また、梯子胴木も部分によって加工方法が変化しており、時期差および工人差などの可能性が浮かび上がった。平面では杭を多数検出した。古写真と比較すると、戦後は材木の集積を行っており、足場が築かれているのがわかる。この足場周辺に杭が多く検出できたことから、その痕跡である可能性が高い。今回の調査によって新堀川護岸の石垣の構造とその性格の違いがより鮮明になった。使用されている石材やその加工方法から高知産の石材が使用されなくなっていく過程や、材木町として機能を失っていくことがわかる。新堀川護岸兩岸の調査を行い、下部構造の確認もできたことから全体像、そして今に至るまでの変遷を見ることができた。(下木)



写真46 梯子胴木検出状態(東より)



写真47 新堀川西岸石垣(南東より)

## 4. 忠兵衛遺跡 (21 - 4NC)

所在地 南国市小籠

立地 台地縁辺部

時代 中世～近世・近代

調査期間 令和3年4月27日～11月30日

調査面積 5,613㎡

担当者 坂本憲昭・久家隆芳・綾部侑真・宮地啓介

調査内容 忠兵衛遺跡(南国市小籠字忠兵衛・茂祐・宮本ほか)は標高約6.0m前後を測る長岡台地(古期扇状地)の側端部に占位し、物部川旧河道による河成堆積扇状地から氾濫平野(大津低地)へと緩やかに移行する地形的特性に立地している。

高知県が計画している都市計画道路高知南国線建設に伴い平成28年度から若宮ノ東遺跡の発掘調査を遂行してきた。延伸西方に位置する本遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地(散布地)として把握されていた。令和元年度に高知県教育委員会が実施した試掘調査により、事業計画区内に遺物包含層及び遺構の存在が確認されたことにより、工事で影響を受ける範囲について本発掘調査が必要との判断に基づき、「忠兵衛遺跡」として本調査を実施した。調査の結果、中世～近世以降にかけての遺構群をほぼ一次検出面で検出した。主な遺構として、溝状遺構約200条、多様な形態の土坑約120基のほか、礎板状の根石を伴う数棟の掘立柱建物跡、柱穴列が多数検出されている。また石組みの井戸跡も検出され、往時の人々の営為の痕跡を確認できた。以下に調査内容を概観する。

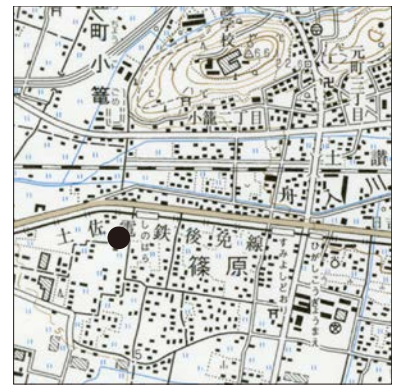


図11 忠兵衛遺跡位置図



写真48 遺構完掘状態(上空より)

#### 4. 忠兵衛遺跡

調査対象地東端において、臨接する若宮ノ東遺跡から続く中世の遺構を検出した。調査区全体を概観すると、遺物は回転台(ロクロ)成形によるナデ痕を有し底部回転糸切りを製作手法の基調とし、小皿・坏等の供膳具を器種組成の主体としている。また、調査対象地西端から、土師質土器及び銭貨などを伴出遺物として埋納する矩形状を呈した小土坑も数基散在して検出されており、一部には方形溝状に環囲する土坑墓も見つかっている。調査区東側に接する若宮ノ東遺跡では14～15世紀代の溝で囲まれた屋敷内に土坑墓が検出されており、屋敷墓として位置付けができる。一方、今回の調査区ではそれに後続する段階には墓地化していく傾向がみられ、中世集落の変容過程の一端を見ることができた。

また、今次調査区では、同軸方向に併行して断続的に伸長する小規模な溝状遺構が確認されている。これらの遺構は、明治期の地積図等による地目を考慮すれば、耕作に伴う畝溝の可能性が考えられ、他にハンダ土坑(貯留槽状遺構)や、溜井の可能性が考えられる立坑状遺構を検出していることから、当該地が耕作地として利用されていたと思われる。遺物は主に近世の陶磁器類や炆器・瓦片等が出土しており、根石を伴う柱穴列で構成される掘立柱建物跡は、検出状況、規模から納屋または埋桶遺構等の上屋であったと考えられる。また、性格不明遺構とした池沼状の埋没微地形も検出されているが、開墾による土取り痕の可能性が高い。

今回の調査区は近世以降に耕作地として利用されていた事が明らかとなり、若宮ノ東遺跡から続く調査対象地西端の土地利用の変遷を確認する事ができた。(宮地)



写真49 中世墓遺構完掘状態(南より)



## 5. 金政遺跡 (21-5AK)

所在地 安芸市東浜

立地 沖積地

時代 古代・中世

調査期間 令和3年5月25日～令和4年1月31日

調査面積 3,870㎡

担当者 池澤俊幸・筒井三菜・田代雅美

調査内容 金政遺跡は、平野部が少ない高知県東部で最大規模の安芸平野に所在し、高知県教育委員会が令和2年度に行った確認調査の結果、中世を中心とした遺構・遺物が遺存していることが

判明した。このため県教育委員会は工事を計画していた国土交通省と協議し、本年度に発掘調査を実施することとなった。その結果、掘立柱建物跡を含むピット283基、土坑10基、溝跡71条、炉跡1基、自然流路跡1条、性格不明遺構5基を検出した。16棟認めている掘立柱建物跡のうちには、両庇で身舎の桁行7.6m、庇を含めた妻側長9mのものや、2×2間で周囲を柱列が囲むものがある。これらの建物群は方位や柱筋を一定揃え、企画的に配置されており、区画溝も認識できる。柱穴には、各所で土師質土器杯皿類や貿易陶磁器が埋納されていた。

多数検出された溝跡の規模は様々で、大きなものは幅、深さが数十cmを測る。注目されるのはその軸方位が現在の道路や土地区画のそれと一致しているのみならず、位置までが一致し、地表の畦畔等の直下で検出されるものがあることで、当平野にみられる条里状の地割の起源が溝跡群の年代以前に求められる可能性がある。

出土遺物は多数の土師質土器の他、青磁蓮弁文碗、玉縁の白磁碗、和泉型瓦器椀、東播系須恵器鉢、在地産瓦質土器、鉄器、鉄滓、土錘等がある。既述した諸遺構はこれらの時期に属し、盛行期は比較的絞ることができる。資料整理中の印象では、搬入品

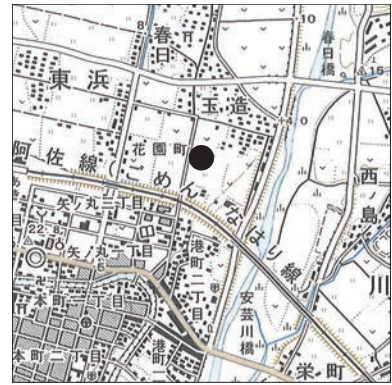


図12 金政遺跡位置図

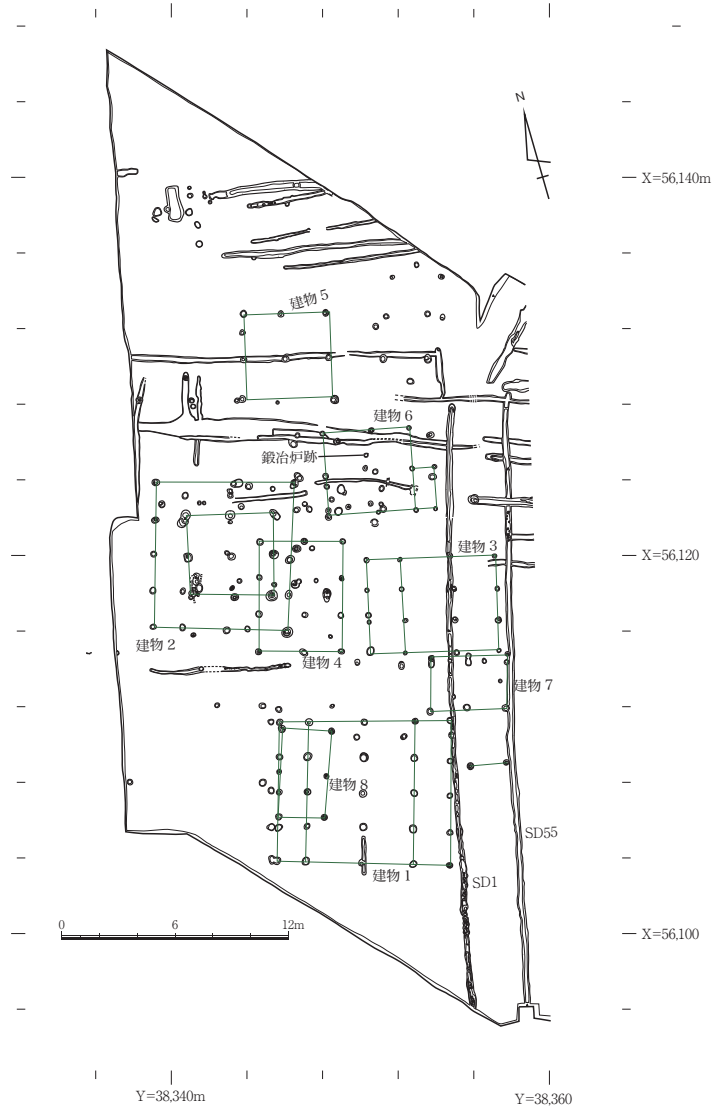


図13 金政遺跡I区遺構配置図

## 5. 金政遺跡

の比率が比較的高い感がある。

以上は安芸市中心部で初めての中世前期のまとまった調査成果であり、古代を中心とする瓜尻遺跡と、長宗我部地検帳にみる「浜」地区の盛況時期との間をつなぐ資料を得た。

検出された16棟の掘立柱建物跡のうち、最大の1棟は両庇とみられ、身舎の桁行7.6m、庇を含めた妻側長は9mを測る。他に2×2間の建物あるいは身舎を柱列が囲むものがあり、県内の中世建物跡で明確な他例をみない。

これらの建物跡群は方位を揃えるだけでなく、柱筋等を一定揃え、企画的に配置されており、区画溝も認識できる。柱穴には、各所で土師質土器杯皿や貿易陶磁器が埋納されていた。

また、屋敷地北部で炉跡の基部が検出された。被熱により還元色を呈する厚さ数cmの硬化粘土と、その外周の赤色化層からなる直径23cmの円形に近い隅丸方形の平面形で、鍛冶炉の底部と考えられる。近接して炭化物や焼土が詰まった「作業ピット」も検出されたほか、これらを覆うような小型建物跡があり、「建屋」の可能性が高い。当鍛冶炉遺構は本県で検出された鍛冶炉跡の中で遺存状態が最も良好でかつ年代も推定でき、関連遺構も存在する希少な事例である。(池澤)



写真50 中世の溝跡と現代の畝(北より)



写真51 鍛冶炉跡検出状態(南西より)

## 6. 成願遺跡 (21-6NS)

所在地 南国市能間

立地 扇状地

時代 弥生時代・古代

調査期間 令和3年9月6日～令和4年2月4日

調査面積 1,330㎡

担当者 坂本憲昭・綾部侑真

調査内容 成願遺跡は高知県中部の南国市に所在し、高知県最大の平野である香長平野を形成した物部川の右岸の扇状地上に立地している。周辺には南方約2.5kmに弥生時代前期前葉から後期前半まで地域の拠点集落であった田村遺跡群が所在する。遺跡のある香長平野には条里地割が残存しており、遺跡東側の南北に直線的に伸びる広域農道は香美郡、長岡郡の境界線として知られている。また、今回調査では現況地形の制約により調査できなかったが、竹崎仁氏による歴史地理学的復元では古代官道である「南海道」が遺跡内の現況東西畦道に比定されている。

今回の調査は農林水産省中国四国農政局が計画した「国営緊急農地再編整備事業高知南国地区能間工区」事業化によるもので、平成30年度に南国市教育委員会によって試掘調査が行われ、遺跡であることが判明し、本調査が必要となったため、南国市から委託を受け本調査を実施したものである。

調査では弥生時代と古代の遺構、遺物を検出した。弥生時代の遺構は竪穴建物跡、土坑、溝跡である。竪穴建物跡は平面形円形のもの5棟、平面形が長方形のもの3棟、合計8棟確認されている。円形のは直径4.4m～8.6mを測る。残存高は最も浅いものが3cm、最も深いもので約30cmが残存していた。床面からはいずれも壁溝、柱穴、中央土坑を検出しており柱穴は円周を巡るように配置されていた。1-2区で検出した竪穴建物跡は最も規模の大きなもので直径約8.6mを図り、その中央部からは複数に切りあった状態で中央土坑を検出した。柱穴は約100基検出し、同一円周上で複数に切りあった状態のピット群が確認できる。同一地点で複数回の建て替えを行った集落の中心的建物と考えられる。長方形の竪穴建物は長軸約3.4m～2.6m、短軸は約2.0m～1.5m、残存高約30cm～60cmで床面からは柱穴は検出されていない。他の土坑と比較して大型であることから建物跡の可能性が高いと考えられる。土坑は約60基確

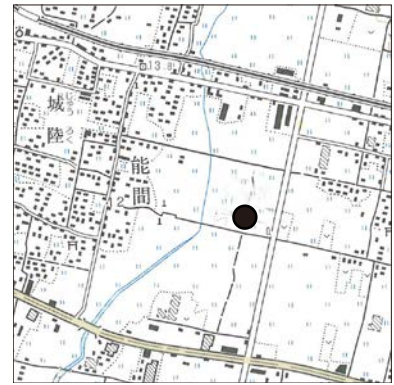


図14 成願遺跡位置図



写真52 竪穴建物跡完掘状態(上空より)



写真53 土坑遺物出土状態(北より)

## 6. 成願遺跡

認されており平面形は円形、楕円形、長方形、溝状のものが検出されている。円形の土坑では下部が膨らみ袋状を呈するものがあるが残存高は約40cm程度の浅いものがほとんどで埋土中からの遺物出土は少なかった。土坑については、隅丸長方形で断面形は箱型のしっかりした土坑で、埋土中から完形品は見られないが比較的多くの弥生時代中期の土器が出土している。柱穴は多く検出しているが建物跡を復元することはできなかった。溝跡は査区の南側で1-1・2区を直線的に東西貫くSD1を検出している。SD1は断面形逆台形状で上端幅2.2m～1.5m、床面幅0.8～1.2m、残存高45cm～65cmの規模の大きなもので、SD1北側から竪穴建物跡、土坑を検出しており集落を画する溝跡と考えられる。

古代の遺構は約4mの感覚で並行して南北に伸びる溝跡を2条検出している。溝跡の規模はほぼ同一で、断面形は皿状で上端幅0.7m～1m、残存高10～18cmを測る。検出長は約94mで調査区を縦断し中央部ではほぼ直線であるが調査区南端部で緩やかに湾曲している。埋土中からは瓦器椀や土師器椀が出土しており、古代の道路遺構の可能性が考えられるが湾曲が見られ条里地割からずれていくことから可能性は低いものと判断される。

調査成果で最も重要なこととして、弥生時代中期中葉の溝で区画された集落を確認したことが挙げられる。弥生時代当地域では前期初頭以来の母村的集落である田村遺跡群から集落が拡散、拡大してゆくと考えられているが、中期中葉の遺跡は遺跡の様相がわかる事例が少なく、当地域の弥生時代集落の消長の変遷を明らかにする重要な発見となった。また高知県全体でも当該時期の遺跡の調査例は少ないためこの時期の様相を探る上でも大きな成果を得ることができた。(綾部)



写真54 北側完掘状態

## 7. 高知城跡 (21-7KCN)

所在地 高知市丸ノ内

立地 丘陵上

時代 近世

調査期間 令和3年11月9日～令和4年3月31日

調査面積 176㎡

担当者 筒井三菜

調査内容 調査地点である高知公園西ノ丸は高知城の西側山麓に位置する曲輪である。改修工事の対象となった範囲は西ノ丸西側石垣で、対象部分の石垣は令和2年6月に崩落の発生を確認した。崩落の原因として西ノ丸に設置している水路が機能していなかった可能性があり、この水路の改修と石垣の復旧、及び支障木の伐採を実施することとなった。

調査地点である西ノ丸は「正保土佐国城絵図」では下屋敷、「寛文己酉高知絵図」には西ノ丸とある。明治年間の「高知城の圖」では西ノ丸とあり、曲輪入り口付近には門の描写及び「西ノ丸門」と書かれている。また、西ノ丸の西側地形に沿うように描写された「枌葺堀」が確認できる。各絵図資料では、西ノ丸の西側は城の西堀に面する場所にあたるが、石垣に関する描写はみられない。

今回、石垣改修工事に伴う工事(新設排水溝)によって影響を受ける部分について、遺構の有無及びその状況を把握するために発掘調査を行った。

調査の結果、西ノ丸の南端、出入り口部分にあたる調査区から前述した西ノ丸の門の礎石の可能性が考えられる石列を検出した。石列は東西方向に3～4石を検出し、範囲は南北約0.5m、東西方向に1.45mを測る。石列を構成する東端の石は調査区東壁に接しており、調査区外に伸びるものと考えられる。石はチャートの自然石を使用し、石下には10～20cm大の石が設置され、石の据わりや高さの調整等を行ったものと思われる。また、調査区の西側、石列より約2.3m南西方向において搦手門東側石垣を構成する築石2石を確認した。2石の築石は、搦手門東側石垣の隅角部の築石で、地表下約0.4～1.10m間からの検出である。築石は上下2段で、この2石を合わせた高さは0.62m、現況の石垣天端までは約1.8mを測る。

石質は上段の築石がチャート、下段の築石は砂岩からなり、チャートの築石は高さが約40cm、控えの長さは約40cmまで検出した。砂岩の築石は高さ約30cm、控えの長さが約50cmまでの確認であった。これら築石の北側では新たな築石の確認はできなかったが、それぞれの築石には角石にみられるハツリ等の整形が認められないことから、本来はまだ北側に築石が続いていたものと考えられる。

西ノ丸の北端部にあたる調査区で

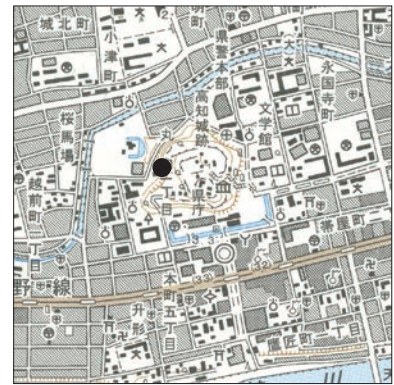


図15 高知城跡西ノ丸位置図



写真55 石列検出状態(南より)

## 7. 高知城跡

は、地表下約0.8～0.9mより石列2を検出した。検出範囲は南北方向に約0.9m、東西方向が約1.2mで、調査区の北東から南西方向にかけて位置する。石列を構成する石は9石を確認し、石材にはチャート、砂岩、石灰岩がみられた。石列の標高は南側から北側に向けて10cm程度低くなっており、段状を呈していたものと考えられる。

今後は崩壊した石垣の解体調査と石垣の積み直しが実施される計画である。(筒井)

## V 条例・規則等

### 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

**第1条** 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

**第2条** センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

**第3条** センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

**第4条** センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

**第5条** センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

## 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

### (遵守事項)

**第6条** 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

### (損害賠償義務)

**第7条** 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

### (指定管理者が行う業務)

**第8条** 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

### (指定管理者の指定の申請)

**第9条** 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

### (指定管理者の指定等)

**第10条** 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。
- (4) 事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

### (事業報告書の作成及び提出)

**第11条** 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に



基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

**第12条** 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

**第13条** 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

**第14条** 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

**第15条** 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

**第16条** 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

**第17条** この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

## 2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施工規則

### 附則

#### (施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

#### (準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

#### (経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

## 2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

**第1条** この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

**第2条** 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

**第3条** 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

**第4条** この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

### 3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

### 3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令29高文財第889号

公益財団法人高知県文化財団 様

平成29年11月8日付けで申請のありました高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第9条の規定に基づく指定管理者の指定については、同条例第10条第2項の規定に基づき指定します。

平成29年12月21日

高知県教育長 田村 壮児

#### 1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

#### 2 施設の所在地

南国市篠原南泉1437-1

#### 3 指定期間

平成30年4月1日から平成35年3月31日まで

# 高知県埋蔵文化財センター年報

第31号

2021年度

発行日 令和5年1月31日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター  
〒783-0006

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671 Fax. 088-864-1423

URL. <https://www.kochi-maibun.jp/>

印刷 川北印刷株式会社





